POD

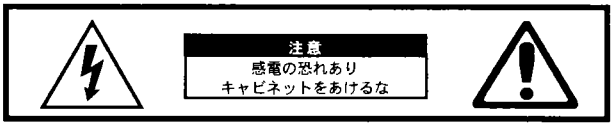
VERSION 2

オーナーズマニュアル

An electrophonic version is available on the included CD-Rom
and at http://www.line6.com.
Revision E.

LINE 6

安全上のご注意



マークについて
この機器に表示されているマークには、
次のような意味があります。

このマークは、機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。

このマークは、注意喚起シンボルであり取扱説明書などに、一般的な注意、警告、危険の説明が記載されていることを表しています。

火災・感電・人身障害の危険を防止するには

以下の指示を守ってください

警告

● 本製品を使用する前に、以下の指示をよく読んでください。

● 電源プラグは、必ずAC100Vの電源コンセントに差し込んでください。

● 次のような場合には、直ちに電源を切って電源コードなどを取り外し、コルグ営業所、またはお買い上げになった販売店に修理を依頼してください。

● 本製品を使用する前に、以下の指示をよく読んでください。

○電源コードやプラグが破損したとき
○ 異物が内部に入ったり、液体がこぼれたとき
○ 製品が（雨などで）濡れたとき
○ 製品に異常や故障が生じたとき

● 次のような場所での使用や保存はしないでください。
○ 温度が極端に高い場所（直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など）
○ 水気の近く（風呂場、洗面台、濡れた床など）や湿度の高い場所
○ ホコリの多い場所
○ 振動の多い場所

● 修理／部品の交換などで、取扱説明書に書かれている以外のことは、絶対にしないでください。必ず最寄りのコルグ営業所またはコルグ営業技術課に相談してください。

● 電源コードを無理に曲げたり、上に重いものを乗せたりしないでください。電源コードに傷がつき危険です。

● 本製品を単独で、あるいはヘッドフォン、アンプ、スピーカーと組み合わせて使用した場合、設定によっては、永久的な難聴になる程度の音量になります。大音量や不快な程度の音量で、長時間使用しないでください。万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、専門の医師に相談してください。

● 本製品に、異物（燃えやすいもの、硬貨、針金など）や液体（水やジュースなど）を絶対にいれないでください。

● この機器を分解したり、改造したりしないでください。

注意

- 本製品は正常な通気が妨げられることのない所に設置して、使用してください。

- 本製品はマイクロコンピュータを使用した機器です。このためラジオやテレビなどを接近して同時にご使用になりますと、それらに雑音が入ることがあります。逆にラジオ、テレビ、その他の電子機器から本製品が雑音を受けて誤動作する場合があります。ラジオ、テレビ、その他の電子機器などからは充分に離してご使用ください。

- 他の電気機器の電源コードといっしょのタコ足配線は危険です。本製品の定格消費電力に合ったコンセントに接続してください。

- スイッチやツマミに必要以上の力を加えますと故障の原因となりますので注意してください。

- LCD画面を破損する恐れがありますので、下記のようなことは、絶対にやらないでください。
  - ○ シャープ・ペンシルのように先の鋭いもの、硬いもので、ＬＣＤ画面を強く押したり、こすったりしないでください。
  - ○ LCD画面の隅を、ペンや爪などで強くこすらないでください。

- 外装のお手入れは、必ず乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。ベンジンやシンナー系の液体は絶対にご使用にならないでください。（コンパウンド質、強燃性のポリッシャーも不可）。

- 製品をお買い上げいただいた日より一年間は、保証期間となり、修理は無償となりますが、保証書に購入店での手続きがない場合は無効になります。保証書は必ずお求めになった販売店で所定の手続きを行った後、大切に保管してください。

- 今後の参照のために、この取扱説明書はお読みになった後も大切に保管してください。

- 電源コードをコンセントに抜き差しするときは、必ず電源プラグを持ってください。

- 長時間使用しない場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。

目次

第一章 6
クイックスタートガイド 6
クイックスタートガイド 6
愛用者カードのご記入について 6
GET ONLINE 6
イントロダクション 7
WELCOME THE POD..... 7
モデリング 7
アンプ＆キャブモデル 8
A.I.R. マジック 8
アンプモデルとエフェクトのカスタマイズ 10
トーントランスファー 10
第二章 10
コントロール＆コネクション 10
第三章 17
セットアップ 17
シナリオ１ースタジオ使用 17
設置場所 18
A.I.R. 18
適切なインプットの選択 18
小規模スタジオにて 18
大規模スタジオにて 18
チェインジングヒストリー 19
ダイレクトインジェクション 19
センドとリターン 19
クリップレベル 20
要注意 21
フットコントローラー 21
コンピューター／MTR システム 21
フットタイプエフェクター 21
MIDI コントロール 22
シナリオ２ -ライブ使用 22
設置場所 22
A.I.R. 22
切り替え 23
キャビネットチューニングモード 23
アウトプットレベル 23
アンプへの接続 23
ライブでの接続 24
フットタイプエフェクターとの接続 25
フットコントローラー 25
第四章 26
モデリング 26
第五章 34
エフェクト 34
エディット 34
内蔵エフェクト 34
Reverbs 34
Compressor 34
Tremolo 35
Chorus 35
Flanger 35
Rotary Speaker 36
Delay 36
Noise Gate 36
コンビネーションエフェクト 36
Delay/Compressor 37
Delay/Tremolo 37
Delay/Chorus 1 37
Delay/Chorus 2 37
Delay/Flanger 1 37
Delay/Flanger 2 37
Delay/Swell 37

第六章 37
音作りとセーブ 37
マニュアルモード 37
チャンネルプログラムメモリー 38
音色の転送 38
ホームページから 38
Flextone II や POD Pro への POD サウンドの転送 38
POD 同士のサウンドの交換 38
エディットモード 39
アンプモデルとエフェクトのカスタマイズ 39
カスタマイズモード 40
カスタマイズモードの活用 41
メモリーリセットボタン 42
第七章 42
フットコントローラー 42
Floor Board 42
接続方法 42
2 つのモード 42
1. チャンネルセレクトモード 43
バンク 43
チャンネルセレクト 43
マニュアルモード 43
Floor Board を使ったエディットとセーブ 43
タップテンポ 44
チューナー 44
ワウペダル 44
ボリュームペダル 44
2. エフェクトオン／オフモード 45
Distortion 45
Drive/Boost 45
EQ 45
Tremolo/Chorus 45
Delay 45
Reverb 45
エフェクトのオン／オフ 46
フットコントローラー FB4 46
第八章 47
MIDI によるエディット 47
MIDI とは 47
イン／アウト 47
MIDI チャンネル 47
MIDI メッセージ 48
MIDI プログラムメッセージ 48
MIDI コントローラー 48
MIDI システムエクスクルーシブ 48
POD/POD PRO/FLEXTONE II への音色の送受信 48
全てのサウンドの送受信 49
いくつかのサウンドの送信 49
プログラムのバックアップ 50
全てのサウンドの送信 50
いくつかのサウンドの送信 50
EMAGIC SOUNDDIVER ソフト 50
MIDI を使ったその他の機能 51
MIDI プログラムチェンジメッセージによるチャンネルの変更 51
MIDI コントロールメッセージにより音色の変更 51
フル MIDI オートメーション 51
SoundDiver セットアップトラブルシューティング 52
APPENDIX A: AMP MODELS 54
APPENDIX B: EFFECT PARAMETERS 55
APPENDIX C: MIDI PROGRAM CHANGES 56
APPENDIX D: MIDI CONTROLS（その 1） 57
APPENDIX D: MIDI CONTROLS（その 2） 58
SoundDiver POD 簡易ガイド 59

第一章
クイックスタートガイド

クイックスタートガイド

1. PODのアウトプットレベルをゼロにして下さい。
2. PODの左右のアウトプットとレコーダーやミキサーのインプットを接続するか、左(LEFT)のアウトプットとギターアンプのインプットを接続して下さい。また必要であれば、ヘッドフォンをヘッドフォンジャックに接続して下さい。ギターアンプへ接続した場合には、A.I.R. スイッチを AMP ポジションに設定して下さい。
3. 付属の AC アダプターを接続して下さい。
4. ギターを POD のインプットへ接続して下さい。
5. PODのスイッチを入れて下さい。
6. アンプモデルを選択して下さい。
7. チャンネルボリュームを最大に、それぞれのトーン・コントロールを希望の値に設定して下さい。
8. エフェクトを選び、リバーブレベルとエフェクト・トゥイークを調節して下さい。
9. プログラムを変更する場合には、矢印のアップ／ダウンを使用して下さい。マニュアルボタンを押すとそれぞれのノブの位置のままのサウンドが得られます。
10. それでは、弾いてみましょう。

英文取扱説明書の巻末に絵で見て確認できる折り込みがありますので、開いて置いて下さい。そして、その裏のページをコピーし、自分で設定したPODのセッティングはスイッチを切る前に書き込んで置いて下さい。

愛用者カードのご記入について

保証書と対になっている愛用者カードは必ず弊社にご返送下さい。ソフトウェアのバージョンアップ等のお知らせのために必要になります。

GET ONLINE

Line 6は、ミュージシャンに対してパワフルで新しいテクノロジーを提供するということを使命としております。その一貫として、ホームページ(http://www.line6.com)を開設しておりますので、購入を考えていたり、より多くの情報を得たい場合に利用して下さい。

またこのホームページは、必要なことを調べる上で最も効果的な方法の一つになっています。インターネットを通じて、あらゆる事に素早くアクセスでき、PODをよりパワフルにすることが出来ます。また、Eメールで、プロダクトサポートエキスパートと簡単

にコンタクトを取ることが出来ますので、ちっとしたコツやトリック、製品のバージョン、最新のニュースを聞くことが出来ます。

Line6トーントランスファーとディスカッションフォーラム:ホームページにアクセスすると他のPODユーザーやFlextone IIユーザーと意見交換を楽しむこともできます。心地よいコンピューターの椅子というプライベートな空間から、サウンドを交換したり、意見を交換することができます。

もうすでにやっていますか？すばらしい！ホームページを頻繁に見て、最新のニュースや他のものをチェックして下さい。まだインターネットをやっていないのですか？これがチャンスかもしれませんので、PODにまつわる全てのことを手に入れて下さい。

イントロダクション

WELCOME THE POD.....

この度はPODをお買い上げいただきありがとうございました。このPODはギターアンプとして使用できますので、レコーディングに、ライブにと幅広く御使用いただけます。過去４０年間に於けるギターアンプを最新のデジタル・シグナル・プロセッシング技術で完璧に蘇らせました。御使用に際しましては、下記の説明と一緒に英文取扱説明書の巻末折り込みページをご覧下さい。

モデリング

ご存知の通りチューブは一世を風靡したハートフルでソウルフルなアンプのほとんどに装備されており、暖かみがあり、調和のとれた音のクオリティを約束しています。トランジスタアンプではチューブアンプのような音の再現は不可能なものです。又、トランジスターの基板にチューブを一つだけ載せたものもあまり有効な手段とは言えません。オールチューブアンプにはとてもかなわないのです。
非常に多くの機材を使い、色々なギターアンプを通して、チューブがどんな特性を持っているかを分析し、調査しました。チューブが入力信号をどの様に扱うのか？その信号はどのような形に変化をしているのか？どこのポイントで歪みが始まるのか？そのディストーションの特性はどのようなものか？等複雑な要素が絡み合っていましたが、全てをデータ化することに成功しました。

また、ギターの音が作られる上で重要な部分であるスピーカーキャビネットについても研究を重ねました。

そして、スピーカーキャビネットと同様にチューブの信号経路やその他の回路のシグナ

ル・プロセッシングをデジタル領域で完璧に再現しております。

この革新的なモデリング・テクノロジーを搭載し、あらゆる方向性を持ったフレキシビリティを伴い、マルチエフェクトまでを搭載した、赤い輝きを持った玉手箱、PODを完成させました。

アンプ＆キャブモデル

アンプ＆キャブモデルを設計する上で、世界中のギタリストに評価を得ているアンプとスピーカーキャビネットから、それぞれのチューブやトランス、コンデンサー、トーン・コントロール・カーブ、全てのコンポーネントやその他の要素に於ける独自性を研究しました。ここから、Line 6のソフトウェア・アンプ＆キャブモデルの完成に至りました。このアンプモデルはオリジナルアンプの色々なセッティングで音を比較しながら作り上げられ、特にゲインやEQのキャラクターは念入りに仕上げましたので、アンプ＆キャブのモデルを変更するとそれに伴ってエフェクト処理も変更され、オリジナルに近づく様に設計されています。また、こだわりは細部にも及び、トーン・コントロールのセンターでの周波数、カーブ定数、カット/ブースト幅も完璧に分析され、プレゼンス・スイッチ、ブライト・チャンネルや他の要素においても緻密な分析がなされています。加えて、ビンテージ・アンプにおいては一つのつまみが、他のノブの作用にも影響を及ぼす相互作用を司る部分も持ち合わせているという部分も再現しました。これは、まさしくそれぞれのアンプ＆キャブモデルが本物であるといっても良いでしょう。

アンプ＆キャブモデルはPODの核になっており：

1. Line 6モデリングは100%デジタル処理されたテクノロジーでLine 6独自のものです。
2. Line 6モデリングはサンプリングではなく、トランジスタでもありません。また、特殊なギターやピックアップやケーブルを使用するわけでもありません。

A.I.R. マジック

PODは最新のイノベーション：A.I.R. ダイレクト・レコーディングアウトプットを応用したモデリングサウンドをお届けします。A.I.R. とはAcoustically Integrated Recordingテクノロジーの頭文字であり、レコーディングに於ける様々なアンプ、キャビネット、スピーカー、マイク、レコーディングルーム自体の総合的なキャラクターを分析したものです。

今日の多くのプリアンプ、アンプ、ダイレクトボックススタイルのアンプはキャビネット・シミュレーターやスピーカーエミュレーターという機能を持ち合わせていますが、使い勝手が悪く、高域が落ちてしまう割には修正が効かないような設定になっています。要するに、スピーカーや木の材質やその他のデザインの要素が変われば音にも変化が出るはずなのですが、これらのキャビネットシミュレーターは、そこまでの再現が不可能なのです。ですから、マイクを立てたときのプレースメントに対する相違も再現できませ

んし、レコーディングに於ける空間の微妙なアンビエンスも表現できないのです。

A.I.R.の開発は、このようなダイレクトレコーディング機器に於ける不満を解決するところから始まったのです。一見「使いやすい音」のように思える製品から出る音は、実はギター本来の音を殺しているという場合もあるのです。それはあたかもギターの弦が古くなっていて響きを失っているようなものです。

PODはアンプモデルとA.I.R.テクノロジーの両方を装備しており、全ての音の要素を再構築することによって本物のアンプとスピーカーキャビネットで演奏しているのと同じ感触を味わうことができます。

●ギターアンプ回路による音の違いは、選択されたアンプモデルによって反映され、それぞれのモデルに長期に渡る研究の成果を見ることができます。

●通常のギターアンプでは、ギター信号は一度回路を通り、スピーカーキャビネットから出力されます。スピーカー自体のスペックや個数、特徴という要素が絡み合ってキャビネットから出力される音色が決定されます。ですから、たとえばMarshallのヘッドで12インチのスピーカー一つを開放型キャビネットでドライブさせる場合と12インチ4つを密閉型キャビネットで鳴らす場合とのサウンドは歴然としています。Line 6ではこれらのキャビネットとギターサウンドとの関係を忠実に再現し、バーチャルソフトウェアスピーカーキャビネットとして綿密に設計しました。

●サウンドがスピーカーキャビネットから出力された後、レコーディング場面で次に重要になるのはそれを受けるマイクになってきます。つまり、楽曲にあったギターの音を録音する場合にいくつか違ったマイクの種類の選択があり、そのプレースメントに於いても考慮が必要になってきます。つまり、コーン紙の中心にマイクを立てるのと中心線を外れたところに位置させるのではサウンドに違いが現れてきます。Line 6では、単なるギターサウンドに加えて標準的なマイクのプレースメントやプレースメントを違えたときの音の違いに対しても細かく分析し、それを合わせ持ったキャビネット・シミュレーションを実現させています。

●ギターアンプやキャビネット、マイク自体では空間を表現することはできません。レコーディングルームにおいてはギターサウンドそのものが重要になりますので、空間エフェクトとしてはリバーブが部屋の壁、フロア、天井からの反射する音を再現し、空間をかもし出す基本的なものとして使用されます。しかし、サウンドがスピーカーとマイクの間の空気を通るときにある程度分散することも考慮しなければなりません。つまり、リスナーとスピーカーの間にある空気という隔たりによって音も分散するということです。これは最終的なサウンドを決める上で鍵になります。

これら全てのサウンドを決定する重要な構成要素はLine 6のPODに搭載されています。アンプモデルのつまみをお好みの位置に設定すると、PODは自動的にそのアンプに最も

マッチしたキャビネットとマイクのセッティングを選び出し、空気感を損なわないサウンドを再現します。そこで新たにリバーブを追加することもでき、今までにないマイクプレースメントまでシミュレートしたサウンドを使ってレコーディングを開始することができます。更に、MacintoshやWindowsマシンから付属のSoundDiver MIDIコントロールソフトウェアを使ってより細かくエディットでき、アンプモデルとキャビネット／マイクロフォンの新たな組み合わせや音の広がり感を設定することができます。

A.I.R. ダイレクトレコーディングアウトプットはLine 6の占有であり、Line 6のアンプモデルにおいてはPODのダイレクトレコーディングサウンドの最大の要になるものです。

アンプモデルとエフェクトのカスタマイズ

バージョン2.0では、PODのアンプモデルとエフェクトのそれぞれのセッティングをカスタマイズすることができます。これによって、ノブを使ってアンプモデルやエフェクトを選んでいるときに、簡単にお好みのセッティングをすることができます。詳しくは第六章を参照して下さい。

トーントランスファー

POD, POD Pro, Flextone IIとは互いに互換性がありますので、サウンドの拡張性があり、ホームページのwww.line6.comのトーントランスファーウェブライブラリーにてサウンドをダウンロードしたり、上記のアンプ間でのやりとりをすることができます。

では、PODにギターをつなぎ、クイックスタートガイドを見ながらLine 6アンプモデルを十分にご堪能下さい。

第二章
コントロール&コネクション

英文説明書の最後のページをめくると簡単に絵で見て確認できる折り込みがありますので、開いて置いて下さい。そして、その裏のページをコピーし、ご自分で設定したPODのセッティングはスイッチを切る前に書き込んで置いて下さい。

1. パワースイッチ

本体右端。電源のオン / オフを行います。

2. インプット

本体右下。ギターからの出力信号を接続します。(これはモノラルでアンバランス接続です。)

3. ヘッドフォン

本体左下。ヘッドフォンを接続して下さい。ボリュームは、アウトプットレベルノブで調節します。ヘッドフォンアンプは、あらゆるヘッドフォンに適応できるように設計されていますので、ご使用の際には音量には十分注意して下さい。

4. アウトプットレベル

本体左端ノブ。アウトプットレベルをコントロールし、ヘッドフォンレベルも同時にこのノブで調整しますが、これはメモリーされません。音量を変えても音色は変化しませんので、どのレベルでもストレスなくお楽しみ頂けます。

PODはアウトプットレベルが最大の時に、信号とノイズが一番良いレベルに設計されていますので、アウトプットレベルを下げると、 ヒスノイズが増えることが予想されます。
レコーディング機材やミキサーやそのほかの機材と共にできるだけ高いアウトプットレベルを設定するために、PODのアウトプットは、マイクやギターレベルのインプットではなく、ラインレベルの機器に接続して下さい。ラインレベルインプットを使用することによって、PODのアウトプットレベルは最大(もしくは最大の近く)まで上げることができますので、一番良いサウンドを得ることができます。もしその機材に、マイク/ラインレベルインプットのような可変の機能が装備されてるのであれば、レベルを決める際に、それらのインプットのトリムを最小に設定し、PODのアウトプットレベルを最大に設定して下さい。

5. レフト&ライトアウトプット

本体左上部。バランス型 1/4" TRS コネクター。+4dBu バランス型の製品に対応しますが、ギターシールドを使ったアンバランス型の -10dBV 機器にも対応しています。モノラルで使用する場合には左側のアウトプットを使用して下さい。(左側のみに接続し、ヘッドフォンも接続されていなければサウンドはモノラルとして認識され、ロータリースピーカーのようなエフェクトを用いてもモノラルで再生されますが、ヘッドフォンを接続すればステレオとして動作するように設計されています。)

6. A.I.R.モード

左右アウトプットの間。第一章でも述べましたように、ギターアンプで使用の場合はこのスイッチをAMPポジション(向かって右側)へ設定して下さい。これによって、スピーカー/マイク/ルームというトーンシミュレーション機能が解除されます。ミキサーやレコーダー、PA、パワーアンプ等に接続して、PODをセットアップする場合には、DIRECTに設定して下さい。尚、AMPポジションであってもヘッド

フォンを使用すると、ヘッドフォン端子に接続された段階で、DIRECT（A.I.R.がONの状態）になり、ギターアンプへの出力としては不適切になりますのでご注意下さい。

7. フットペダルコネクター

本体上部。Floor Boardや FB4を接続します。

8. MIDIイン & アウト

本体上部右。MIDI機器を接続し、プログラムチェンジメッセージによって選択したチャンネルをメモリーしたり、コントローラーやエクスクルーシブメッセージでプリセットを選び出したりすることができます。また、同梱されているEmagic SoundDiverを使って、コンピューター上でサウンドのエディットやセーブをすることができます。詳しくは第八章のMIDIによるエディットを参照して下さい。

9. マニュアルセレクトボタン

本体中心部。このボタンを押すとマニュアルモードになり、現在のノブの位置がすべて有効となります。

10. チャンネルアップ/ダウンボタン

マニュアルボタンの左。本体内には9個のバンクにそれぞれA-Dまでの4つのチャンネルがあり、合計36チャンネルのプログラムが組まれています。このチャンネルはアップ／ダウンボタンで操作し、どちらかのボタンを押し続けるととバンクが変わります。マニュアルモードからこれらのあるチャンネルを呼び出した場合、それまで操作していたパネル上のノブ設定は全てそのチャンネルの値に変わってしまいますのでご注意下さい。

11. アンプモデル

本体左下ノブ。アンプのモデルを選びます。このノブを回していくと、あたかも実際に回路が変更されるようにサウンドが変わります（詳しくは第四章のアンプモデルとキャビネットモデルの項を参照して下さい。）。アンプモデルはノブの周りに明記してあり、Line 6独自の4つのモデリングから始まり、時計回りに順次回していくに従って、クリーン系のSmall Tweedから歪みの多いFuzz Boxになり、最後はギター用ではないTube Preampになります。

バージョン2.0では、このノブで32のアンプモデルを全て選択することができます。17-32までのアンプモデルにアクセスするには、タップボタンを押したままアンプモデルノブを回して下さい。
アンプモデルを選ぶ際に、キャビネットモデルも自動的に選択されます。例えば、Brit Hi Gainモデル（Marshall JCM 800のヘッドのモデリング）を選んだときには、Marshall 4x12がキャビネットモデルとして選択されます。下記に示すエフェクト/

キャブノブによって違ったキャビネットを選択することもできます。
バージョン2.0では、アンプモデルノブを回すと、ドライブ、ベース、ミドル、トレブル、キャブ、リバーブ等すべてのアンプのセッティングが自動的に選択されます。つまり、このノブを回しただけで、すぐに演奏が始められるようになっております。PODに慣れてきたら、アンプに関係するこれらのセッティングをお好きなようにそれぞれのアンプモデル毎にカスタマイズして下さい。詳しくは第六章を参照して下さい。

12. ドライブ

ボタンパネル左側のノブ。選択したアンプモデルのドライブをコントロールします。マスターボリュームを持たないギターアンプのインプットボリュームと同様に、セッティングを高くしていくと歪みが多くなります。

13. トーンコントロール

上部左側のノブ。ベース、ミッド、トレブルのコントロールをします。アンプモデルの設定を変えると、これらのつまみのカーブは、あたかも選択されたアンプの実際のつまみのように動作します。また、プレゼンススイッチも装備しており、タップボタンを押したままトレブルノブを12時以降に設定すれば、チャンネルセレクトのCのボタンが光り、プレゼンスがオンになったことを意味します。同じ動作で12時以前に設定すれば、プレゼンスが解除されます。FloorBoardを使用時にはEQスイッチからアクセスできます。詳しくは後述のタップ（ホールド）機能の項を参照して下さい。

14. チャンネルボリューム

演奏しているチャンネルのボリュームをコントロールします。このチャンネルボリュームの値はセーブ（プログラム保存）が可能で、例えばチャンネル毎のバッキング用とソロ用という様に使い分けることができます。

15. リバーブ

このノブを回し、リバーブレベルを設定します。PODには2種類のリバーブ（スプリングリバーブとスタンダードなデジタルリバーブ）が標準装備されており、選択したアンプモデルによって予め設定されています。詳しくは第四章かもしくはAppendix Aを参照して下さい。

16. エフェクトトゥィーク

選択したエフェクトの変化をコントロールします。効果はそのエフェクトの種類によって異なり、ディレイ、トレモロ、コーラス、フランジャー、ロータリースピーカーにおいては、タップスイッチによってそのスピードを設定することができます。詳しくはAppendix Bもしくは第五章を参照して下さい。エフェクトノブがバイパスに設定されていれば、エフェクトトゥィークを回しても変化は起きません。

17. エフェクト/キャブ

このノブで使用するエフェクトを選びます。バージョン2.0ではこのノブでキャビネットモデルの選択をすることもできます。キャビネットモデルを選択するには、タップボタンを押したまま、このノブを回します。キャビネット名はノブの周りに灰色で印字されています。また、アンプモデルを選んだ時に、自動的に適切なキャビネットが選択されます。アンプとキャビネットの組み合わせのカスタマイズについては、第六章を参照して下さい。

18. チューナー

本体中心部。このボタンを押すと内蔵されているデジタルクロマチックチューナーが作動します。このとき、全てのPODのアンプモデルやエフェクトがバイパスされますので、クリアな状態でのチューニングが可能になります。チューナーモードに入るとその音はナチュラルかフラットかという表示がされますが、G ♯の場合はA ♭というように表示されます。また、チューナーボタンの下に小さな矢印が二つあり、左側が点灯する場合にはシャープ、右側が点灯する場合にはフラット、両方点灯するとチューニングが合っているという意味になります。このモードから抜けるには本体のどれかのボタンを押すと通常の使用モードに戻ります。

チューナーボリューム
チューニングモードに入っている場合には、チャンネルボリュームノブによってチューニング時のボリュームを調節することができます。Floor Boardを使用の場合には、ボリュームペダルでコントロールできます。

チューナーリファレンスキャリブレーション
A=440Hz以外の周波数に合わせたい場合、例えばリハーサルルームのピアノに合わせるような場合は、チューナーモードにし、本体のミドルノブを回すと436-445Hzの範囲でリファレンス周波数を選択することができます。この周波数は次に変更するまで変わりませんので、毎回設定する必要はありません。尚、ディスプレイは一桁分しかありませんので、1の位が表示され、441Hzの場合には1と表されます。

19. ノイズゲート

このボタンでノイズゲートのオン/オフができます。詳しくは第五章を参照して下さい。

20. タップ

タップボタンによって、ディレイ、トレモロ、コーラス、フランジャー、ロータリースピーカーのスピードを設定することができます。コーラスやフランジャーでは、ボタンの点滅によってスピードが現され、そのボタンを2回叩く間の速さを感知します。トレモロでは、実際のスピードの半分の早さでボタンが点滅しますので、速いトレモロが設定しやすくなっています。更に、タップボタンを押したままにし、エ

フェクトトゥィークノブを回すによってスピードやテンポを変更することもできます。詳しくは第五章、巻末の図、Appendix B をご覧下さい。

タップ（ホールド）機能
タップボタンにはいくつかの違った使用方法があり、アンプモデル17-32、キャブモデルの選択、そしてディレイフィードバック、ディレイレベル、リバーブディケイタイム、プレゼンスブースト、ボリュームブースト、ドライブブーストをコントロールすることができます。

アンプモデル17-32 : タップボタンを押したまま、アンプモデルノブを回すと、アンプモデル 17-32 を選択することができます。それぞれのアンプモデルの詳細については、第四章か Appendix A をご覧下さい。

キャブモデルセレクト（エフェクトノブ）: タップボタンを押したまま、エフェクトノブを回すと、キャブモデルを選択することができます。キャブモデルは灰色で印字されていますが、詳しくは第四章のキャブモデルのリストを参照して下さい。

ドライブブーストオン／オフ（ドライブノブ）: タップボタンを押したまま、ドライブノブを12時以降に回すと、チャンネルAのボタンが光り、ディストーションがオンになったことを意味します。この場合、ギター信号がアンプモデルを通る前にブーストされますので、ディストーションを低く設定し、出力を高く設定したときのような、より激しいサウンドを得ることができます。Floor Board使用時にはディストーションスイッチからアクセスできます。（第七章参照）

ディレイフィードバック（ベースノブ）: タップボタンを押したまま、ベースノブを回すと、ディレイフィードバックを設定することができます。詳しくは、第五章を参照して下さい。

ディレイレベル（ミドルノブ）: タップボタンを押したまま、ミドルノブを回すと、使用しているディレイのレベルを設定することができます。詳しくは、第五章を参照して下さい。

プレゼンスオン／オフ（トレブルノブ）: タップボタンを押したまま、トレブルノブを12時以降に回すと、チャンネルCのボタンが光り、プレゼンスがオンになったことを意味します。Floor Board 使用時には EQ スイッチからアクセスできます。（第七章参照）

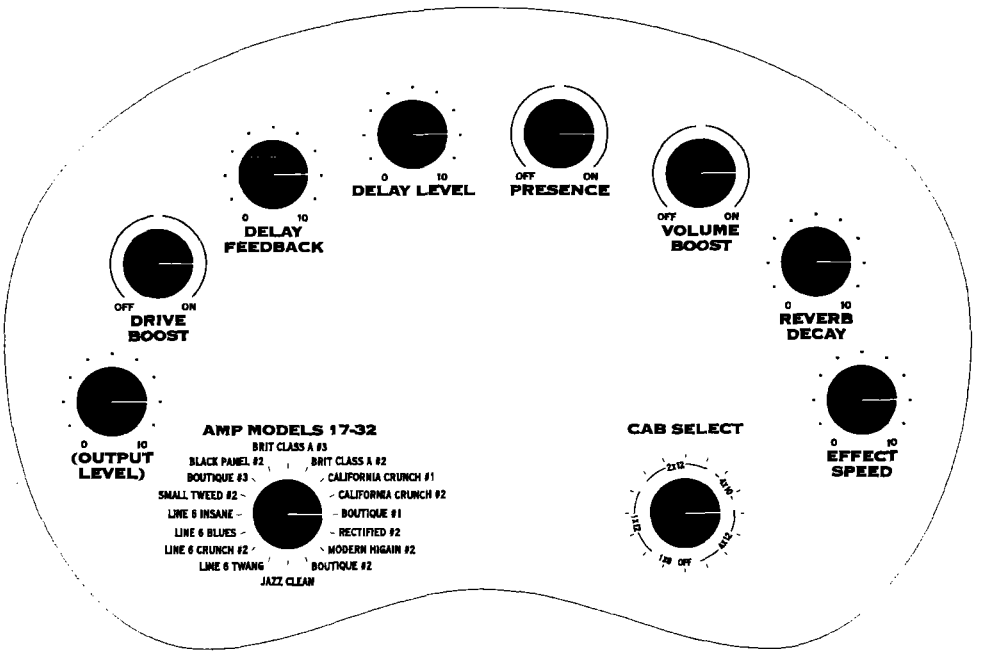
ボリュームブーストオン／オフ（チャンネルボリュームノブ）: タップボタンを押したままチャンネルボリュームノブを12時以降に回すと、チャンネルBのボタンが光り、ドライブブーストがオンになったことを意味します。この場合、リードブーストのような必要以上の歪みにはなりません。Floor Board使用時にはドライブ／ブー

ストスイッチからアクセスできます。(第七章参照)
リバーブディケイタイム(リバーブノブ):タップボタンを押したまま、リバーブノブを回すと、リバーブの減衰時間を設定することができます。詳しくは第五章を参照して下さい。

エフェクトスピード(エフェクトトゥィークノブ):タップボタンを押したまま、エフェクトトゥィークノブを回すと、現在のエフェクトスピードの微調整をすることができます。詳しくは第五章 を参照して下さい。

21. セーブ

予め組まれたプログラムをお使いの際には、ディスプレイに1－9までのバンクナンバーとA－Dまでのチャンネルが表示されます。その状態から、どれでもつまみを回すと、自動的にエディットモードに入り、左端のディスプレイに" EDITED" と表示されます。この音色をセーブするには、セーブボタン(21)を押し、LEDを点滅させます。更にセーブしたいチャンネルをアップ/ダウンボタン(10)を使って9つのバンクのAからDまでの中から選び、その状態から再度セーブボタンを押します。手を離すとLEDの点滅が終了し、選択したチャンネルのLEDが点灯すると



セーブされたことを意味します。以前にその場所にあったプログラムは上書きされます。また、Floor Board を使用する場合については第七章を参照して下さい。

また、マニュアルモードからのセーブはそのままセーブボタンを押し、アップ/ダ

ウンボタンでチャンネルを選び、もう一度セーブボタンを押せば完了です。
但し、セーブのモードに入ってしまってもLEDが点滅している間であれば、タップボタン、マニュアルボタン、チューナーボタン、ノイズゲートボタン、MIDIボタンのどれかを押すことによって、このモードから抜け出すことができます。また、セーブボタンが点滅している間に、5秒間他のボタンを何も触らなければセーブはキャンセルされます。

また、一度セーブした音色について、それぞれのノブのポジションを確認したいときにはセーブボタンを押したままにして、チューナーの矢印を見ながら、それぞれのノブを回して下さい。一カ所だけ両方の矢印が点灯する部分がありますので、そこがセーブした音色のノブの位置になります。一度設定した音色に手を加えたい場合は、その音色を呼び出したままノブを操作して下さい。そうするとEDITEDと点灯し、エディットモードには入ったことを表します。エディットした音色を新たにセーブする場合には、上記の手順にてセーブして下さい。

また、セーブボタンによって、アンプモデルとエフェクトの組み合わせをカスタマイズすることもでき、アンプモデルやエフェクトを選択したときに、即座にカスタマイズしたものを呼び出すことができます。詳しくは第六章を参照して下さい。

22. MIDI

このボタンはMIDIによって、MIDIチャンネルを設定したり、サウンドをダンプしたりする場合に使用します。詳しくは第八章のMIDIによるエディットを参照して下さい。

第三章
セットアップ

ACアダプターを本体右端（1）に接続し、コンセントに入れて下さい。更にギターをインプット（2）に接続し、ヘッドフォンが必要であればヘッドフォンインプット（3）に接続して下さい。スタジオでPODを使ったレコーディングをする場合にはシナリオ1を、ライブや練習で使用する場合にはシナリオ2をご覧下さい。

シナリオ1ースタジオ使用

レコーディング環境にて知っておかなければならない事柄です。

設置場所

LIne 6では、PODをマイクスタンドやアンプの上部に設置するためのアダプターやキャリングバックをオプションとして用意しています。(POD Mounting Bracket ¥4,500 (税別)、POD Bag ¥6,800 (税別))

A.I.R.

PODをギターアンプ以外の機器と接続している場合にはA.I.R.スイッチをDIRECTポジションにして下さい。このモードでA.I.R. DSPはアクティブになり、通常のギターアンプとマイクのセッティングでは音決めが難しいバーチャルスピーカーキャビネットマイクプレースメントが極簡単に再現できます。更にこのTRSアウトプットは+4dBuバランスと-10dBVアンバランスの両方に対応しています。

適切なインプットの選択

PODをレコーダーやミキサー等に接続している場合、その機器がラインレベルの信号を受けられるかどうか確認して下さい。PODは、ラインレベルのインプットを持つ機器に接続する場合に、SNが一番良くなるように設計されています。機種によってはラインレベルとマイクレベルの両方を受けられるように、トリムによって調節できるものがあります。このような場合にはトリムを最小にして接続してから、PODのアウトプットレベルとチャンネルボリュームノブを最大まで上げて下さい。ラインレベルしか受けられないインプットの場合には、そのまま接続して下さい。

小規模スタジオにて

本体のアウトプット(5)とお手持ちの機材を接続し、A.I.R.スイッチをDIRECTポジションにし、ギターをインプット(2)に接続して下さい。アウトプットレベル(4)を適度な値に設定し、アンプモデルノブ(11)をPOD CLEANにし、ドライブ(12)を9時か10時方向にし、チャンネルボリューム(14)を最大にして下さい。

アウトプットレベルノブとインプット側のボリュームを操作しながらプレイすることにより不用意な歪みをさせずに最大のサウンドレベルを得ることができます。ヘッドフォンがあれば接続し、サウンドを確認して下さい。その際にヘッドフォンレベルはアウトプットレベルでコントロールしますので音量の調節に注意して下さい。

大規模スタジオにて

時間のかかるセッティングとしては、ミキサーやMTRを通して大規模なセットアップを組む場合とコンピューターやDAWを核にしたセットアップを組む場合という2通りの場合があります。PODにおいてのMIDIコントロールの状況や同梱されているSound Diverエディターについては、第八章のMIDIによるエディットを参照して下さい。

まず第一に前者の場合、A.I.R.スイッチ(6)をDIRECTポジションにし、通常通りギター

を接続し、更にTRSのバランスケーブルを使用してお手持ちのシステムと接続して下さい。(PODはアンバランスも受けることができます。) そのままテープやディスクに演奏を記録することができます。

チェインジングヒストリー

後者の場合、ミックスダウン時に於いて、従来のアナログギターアンプを使ったシステムでは決して実現不可能であった事が可能になりました。数週間前にレコーディングしたサウンドの完璧な再現とクリエイティブなエディット作業です。つまり、前者のセットアップで基本的にマイクプリアンプとリバーブを決めることと同じ様なものなのです。さて、そこでリバーブを効かしたボーカルを録音することができました。スタジオでよく使われる手法としてボーカルをドライの状態で録り、その後でテープリターンに戻すときにエフェクトセンドを使い、試しにリバーブを掛けてみるという方法があります。これは、ミックスダウンの際に他のトラックとのバランスを考えてそのリバーブが合ってるかどうかを決めることができ、色々な種類のリバーブを試すことや全くリバーブを使わないというような選択ができるからです。POD もこのようなエフェクトセンド／リターンのセットアップを使用することができ、ギタートラックを扱う上で大きな力となります。次項に実際の使い方を示します。

ダイレクトインジェクション

センド／リターンを活用するためには、まず、ギターをMTRやミキサーのダイレクトインプットかコンピューターベースのシステムのインプットに接続して下さい。

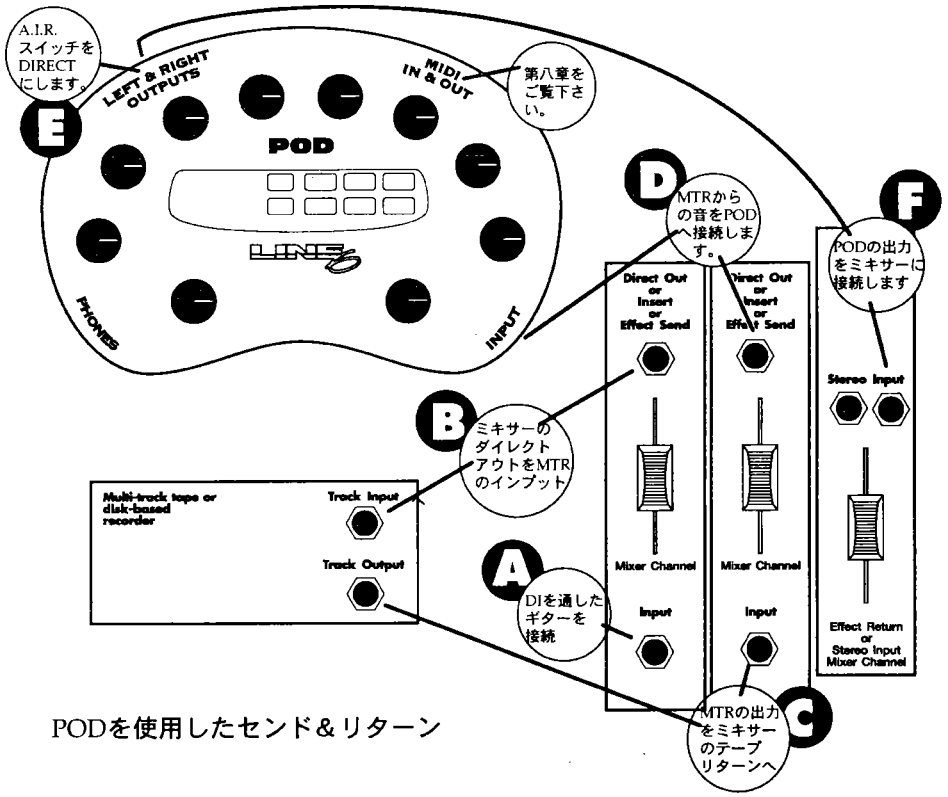
ミキサーのチャンネルにギターのアウトを接続するとどうなるでしょうか？ギターのピックアップはハイインピーダンス設計、最低でも300K Ωになっており、1メガ Ωが理想とされています。殆どのミキサーのインプットは低いインピーダンスで設計されていますので、ギター本来のサウンドは再現できないのです。むしろ、ギターの潰れたような音を表現したい場合には、高品位のDIボックスやプリアンプをギター信号のバッファーとしてミキサーの前に入れることを推薦いたします。これがクリーンなプリアンプであればあるほど、フラットな音質特性を得ることができます。

しかし、アクティブピックアップギターの場合はローインピーダンスなので直接ラインレベルミキサーのチャンネルに接続することもできます。たとえば、ギターを直接Mackie 1202 VLZ PRO のチャンネルに入れてトリムを上げ、適正値にするような場合です。その際には、マイクインプットはインピーダンスが違いますので接続しないで下さい。

センドとリターン

次にPODに於けるセンドとリターンの接続方法に移ります。リバーブを使用する場合：まず、PODを通した場合と通さない場合とを聴き比べて下さい。たとえば、MTRやMDの他にダイレクトアウトを装備したミキサーをお持ちの場合には以下のようになりま

す。：
ギターとDIを、DIとダイレクトアウトを持ったミキサーのチャンネルを接続して下さい。チャンネルのトリムを適正値に設定し、ミキサーのダイレクトアウトからMTRのインプットへ接続して下さい。更にインプットレベルチェック用としてモニターを接続して下さい。MTRのトラックのアウトプットを、ミキサーの他のダイレクトアウトを装備したチャンネルインプットへ接続して下さい。そのダイレクトアウトからPODのインプットへ接続し、PODのアウトプットとミキサーのステレオインプットを接続します。その際にA.I.R.スイッチ（６）はDIRECTになっていることを御確認下さい。これで準備完了しましたので、レコーディングトラックを決め、そのトラックをプレイバックし、



PODを使用したセンド＆リターン

アンプやエフェクターその他のスイッチを入れます。さらに、第八章のMIDIによるエディットもチェックして下さい。閑話休題：PODのプリとポストを同時にモニターしないで下さい。

クリップレベル

上記シナリオの設定中にPODのクリップインジケーター（（１０）アップ/ダウンボタンの下部）に十分注意して下さい。これが点灯した場合には、直ちに入力信号レベルを下げて下さい。しかし、反対にあまり下げすぎると十分な効果が得られませんのでご注意下さい。

要注意

シングルコイルギターをお使いの場合、コンピューターのモニターからのノイズを拾う事があります。これはブラウン管から特殊な放射線が放出されているためで、ギターのピックアップはそれを受信し増幅してしまう事があります。これはオーディオ信号として現れ、ノイズ混入の原因となります。ギターを画面から離したり、直接向き合わないようにすれば、これらの影響を最小限に抑えることが可能です。しかし、狭いスタジオ環境の場合には、ノイズに悩まされながらも素早い作業が必要になり、次のようなことが必要になるかもしれません。レコーディングするトラックのプリロールスタートしてコンピューターのスイッチを切り、そしてギターパートをレコーディングします。レコーディング終了後、モニターのスイッチを入れ再生音にノイズのない事を確認します。

フットコントローラー

PODは別売のFloor BoardやFB4を使用して、４つのチャンネルの足元での切り換え、タップテンポ、ワウペダル、ボリュームペダル等様々なコントロールを行うことができます。どちらもペダルジャック（７）に接続して使用します。また、スタンダードなMIDIコントロールペダルも使用することができます。

コンピューター／MTRシステム

４トラックMTRやそれほど大規模ではないコンピューターを使ったシステムでは、センド／リターンを応用した接続でPODを使用することができます。

コンピューターユーザーの場合：ギターをコンピューターのインプットに繋ぎ（適切なレベルを得るためにはDIの使用をおすすめします）、コンピューターのアウトプットを、A.I.R.スイッチ（６）をDIRECTに設定したPODに接続し、ギターを演奏し、PODのアウトプットの音をお聞き下さい。その際に、クリップインジケーター（１０）が点灯しないように気をつけて下さい。

MTRユーザーの場合：ギターをMTRのインプットに繋ぎ（適切なレベルを得るためにはDIの使用をおすすめします）、A.I.R.スイッチ（６）をDIRECTに設定して下さい。MTRのアウトプットをPODに接続し、クリップインジケーター（１０）が点灯する直前になるようにアウトプットレベルを調節して下さい。MTRを通したPODをモニターするので、録音されたギターサウンドを直接テープやディスクから聴くことになります。さもなければギターのダイレクトサウンドとPODを通した音と二つを同時に聴くことになりますので、ダイレクトアウトを装備したMTRかプリフェーダーのエフェクトセンドが必要になります。（つまり、エフェクトセンドからのPODを通した音を聞く場合には、モニターレベルを完全に下げて使用します）

フットタイプエフェクター

今まで使っていたフットタイプエフェクターにも問題なくPODを追加して使用できま

す。ギターとDIとの間やギターとミキサーのインプット（DIを使用しないとき）との間にフットタイプエフェクターを使用している場合は、エフェクターでミキサーのチャンネルがオーバーロードしていないかどうか、エフェクターがオンになったときにDIを通った信号がミキサーのインプットでオーバーロードしていなかどうかを確認して下さい。また、使用する機材や音色によって個々の事例が違うので、PODの前や後ろにフットタイプエフェクターを置いたときにどうなるかということも実験してみて下さい。

MIDIコントロール

スタジオで使用する場合は、もう少し複雑な操作をする場合があります。そこで、PODは全てのことがMIDIによってコントロールできるように設計されています。これはセンド＆リターンを持ったパワフルな武器になります。MIDIを使って、PODのどのパラメータでもコントロールすることができます。例えば、レコーディングをスタートさせ(ギターをテープに、PODのMIDIアウトプットをシーケンサーに)、フロントパネルもしくはフットコントローラーからPODのプログラムを変更し、リバーブを少し上げ、トーンノブをひねり、他のアンプへ変更します。レコーディングを止め、シーケンサーからのMIDI情報でPODを操作しながらリプレイすると、PODは先ほどレコーディングした動きと全く同じように作用します。そのトラックのリプレイもでき、書き込み可能なMIDIトラックとギタートラックが再生されます。また、PODのノブやボタン、フットコントローラーでの操作が全て自動的に再生され、MIDIメッセージのエディットを始め、あらゆる事が可能です。詳しくは第八章のMIDIによるエディットを参照して下さい。

シナリオ2 - ライブ使用

ライブでお使いの場合には、ギターアンプの直前やシステムのダイレクトアウトとしてお使い下さい。以下にそのセットアップを示します。

設置場所

ステージにて操作しやすい場所に置くためには、オプションのPODマウンティングアダプターを装着し、マイクスタンドやギターアンプの上に設置してください。

A.I.R.

ステージ上では2つの選択が考えられます。：PODからの出力を直接PAに入力する。もしくはギターとギターアンプとの間に接続する。この場合はアンプの直前に置くことでトーンシェイピングとして機能します。PA等のシステムに接続する場合には、A.I.R.スイッチ（6）をDIRECTポジションに設定して下さい。このモードで、A.I.R.DSPはアクティブになり、ステージ上では再現不可能なような最良のマイクプレースメントとキャビネットシミュレーションを得ることができます。このアウトプットは+4dBuのバランスと-10dBVのアンバランスの両方に対応しています。

切り替え

ギターアンプやパワーアンプやスピーカーの直前にてPODを使用する場合には、A.I.R.スイッチ（6）をAMPポジションに設定して下さい。これにより上記のマイクプレースメントやキャビネットシミュレーション機能は解除されます。(小さな開放型コンボアンプの中にはAIRスイッチをDIRECTにした方がよい音になる場合もあります。）また、A.I.R.機能を使用したくないときには、ヘッドフォンを接続していないことも確認して下さい。更に、PODの左側のアウトプットとギターアンプのインプット（ステレオの設定の場合は左右共に）を接続して下さい。

キャビネットチューニングモード

A.I.R.スイッチがAMPポジションの時に、様々な場合で最適なパフォーマンスを得ることができます。工場出荷時には、PODは開放型キャビネットを接続することが想定されていますが、キャビネットチューニングモードによってこれを変更することができます。セーブボタンを押したまま、PODの電源を入れると、ディスプレイにCの文字が現れ、キャビネットチューニングモードに入ったことを知らせます。アップ/ダウンボタンで下記のモードを選び、セーブボタンを押します。

モード	接続	スピーカーキャビネット
A	パワーアンプ	密閉型
B	パワーアンプ	開放型
C（工場出荷時）	コンボアンプ/ヘッド	開放型
D	コンボアンプ/ヘッド	密閉型

アウトプットレベル

PODのアウトプットレベルコントロールはどの様なものでも十分に対応できるよう非常に高いゲイン特性を持って設計されいますので、必要以上に上げすぎないようご注意下さい。

アンプへの接続

他のギターアンプの一部としてPODを使用すると、そのアンプを有効に使用することができます。つまり、一つしかボリュームコントロールを持たないアンプはボリュームを低く設定するとクリーンな音が維持できます。また、更にマスターボリュームを装備するアンプに対しては両方との兼ね合いで、インプットボリュームをマスターボリュームより低く設定し、サウンドが歪まないようにします。アンプによって設定方法は様々ですが、パッシブトーンコントロールがある場合には、ミッドを最大にし、トレブルとベースをゼロにします。アクティブトーンコントロールの場合も同様に多種に渡っておりますが、PODの性能を十分に引き出すようにするため、アウトプットレベルをアンプが歪

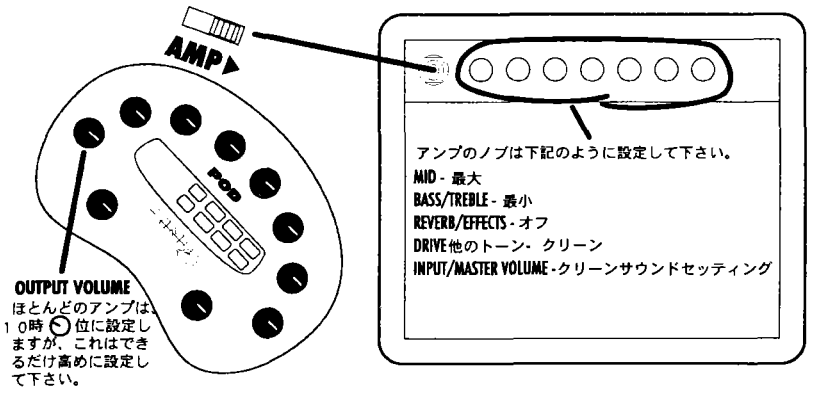
まないように調節して下さい。その際にA.I.R.スイッチはAMPポジションに設定して下さい。

エフェクトリターンやパワーアンプへ直接接続できるジャックを装備したアンプの場合には、それらとPODのアウトプットと接続するとアンプのトーンコントロールをバイパスでき、PODのトーンコントロールのみを使用することができます。

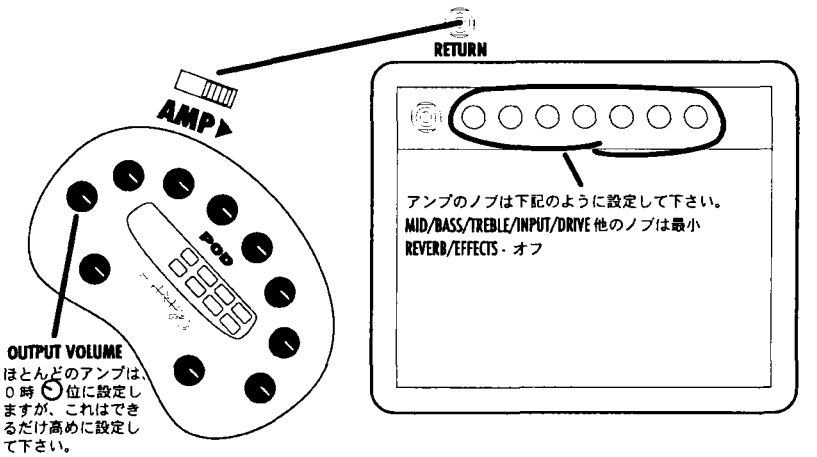
ライブでの接続

下記に示す接続図は、PODの左側のアウトプットからアンプのインプットへモノ接続をしている例です。小さなアンプを使用しているときには、DIRECTポジションも試して下さい。

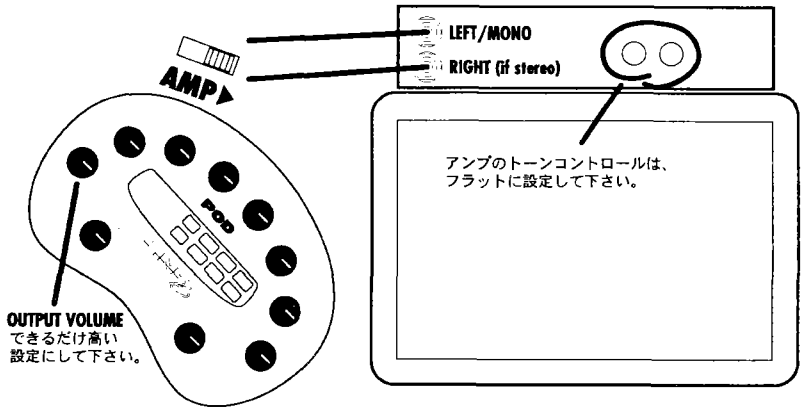
PODがコンボアンプやヘッドの直前に来る場合



コンボアンプやヘッドのインサート/リターンを利用する場合



スピーカーキャビネットをドライブするパワーアンプに接続する場合



フットタイプエフェクターとの接続

PODを挟んでギターとアンプを接続しているときに、外部フットタイプエフェクターを接続したい場合、ディストーションやワウはギターとPODとの間に、リバーブやディレイはPODとアンプとの間に入れて下さい。その他コンプ、コーラス、フランジャー、フェイズ、トレモロ、ビブラート等はどちらでもお好きなところへ入れて下さい。また、ボリュームペダルはギターとPODとの間に入れると、音量に伴いクリーンな音から歪んだ音への変化が楽しめ、PODとアンプとの間に入れると、音質の変化を伴わずに音量を上下させることができます。また、ラインレベルのエフェクトループが装備されているアンプの場合には、エフェクトセンドからPODのインプットへは接続しないで下さい。(しかし、先に述べたようにエフェクトリターンを使用することは問題ありません。)

フットコントローラー

PODは別売の専用フットコントローラーFloor BoardやFB4を使用して、チャンネルの足元での切り替え、タップテンポ、ワウペダル、ボリュームペダル等様々なコントロールを行うことができます。どちらも付属のケーブルをペダルジャック（7）に接続してコントロールします。また、MIDIコントロールペダルを使用してコントロールすることもできます。

第四章
モデリング

モデリングに採用されたアンプ

Note:Fender, Marshall, Vox, Boogie, Soldano, Peavey, Roland, Matchless, Arbiter, ADA, Leslie 他、アーティスト名やグループ名等は全てそれぞれの商標であり、Line 6 とは無関係です。これらは、Line 6 のモデリングテクノロジーに於いて、POD の幅広いサウンド特性を適切に表現する上で使用されております。

POD には 32 個のアンプモデルと 16 個のキャブモデルが搭載されており、アンプモデルノブを回すと自動的にキャビネットの組み合わせも選択されますが、タップボタンを押しながら、エフェクトノブを回すことにより、違った組み合わせを楽しむこともできます。第六章にアンプ / キャビネットの組み合わせのカスタマイズ方法が記載されています。また、下記にアンプモデルとキャビネットモデルの詳細が記されています。

Line6 Clean

Roland JC-120 のトップの音に Marshall JTM-45 のボトムの音を組み合わせ、乾いていて透明感のあるトランジスタの音でありながら、豊かでチューブアンプのような低音が出るようになっています。

Line6 Crunch

クリーン過ぎず、激し過ぎず、Dumble コンボのような音で、ブルースやジャズに向いています。滑らかで暖かみがありながら、締まった音になっています。ミッドコントロールはアンプモデルのドライブの前に、ベースとトレブルはドライブの後に位置しています。

Line6 Drive

モダンで強く、ハイゲインなリードアンプです。滑らかでありながら、刺激的な音がします。全てのトーンコントロールはポストアンプモデルです。このオーバードライブサウンドは種類の違うハイゲインアンプから異なった音の要素を取り出し、混ぜ合わせることによって作られました。レコーディングで使う技法で、違ったギターの音を重ね取りするテクニックに似ています。POD では従来のギターアンプではできなかったことが簡単にできてしまいます。

Line6 Layer

Line6 Clean と Line6 Drive を合わせたものです。既に述べたように、多くのギタリストやプロデューサーはいくつものアンプを同時に奏でて音を造り込みます。例えば、Stevie

Ray Vaughnは、ギターの信号をMarshallとFender Vibroflexに分け、さらにDumbleスチールストリングシンガーも同時に鳴らしてレコーディングします。このアンプモデルを使うことによって、トラディショナルなクリーントーンと変化に富んだLine6 Driveを重ねることができます。ドライブノブは21世紀のクリーンサウンドとペンキが剥げたようなウルトラドライブとのブレンドコントロールとして働きます。

Small Tweed

1952年のFender Tweed Deluxeをモデリングしてあり、一番うなるアンプモデルになっています。オリジナルのアンプはトレブルのカットをするトーンコントロールが一つあるだけで、ベースとミッドは変更できませんでした。これに対しては、モデリング時に改善を加え、ベースとミッドをポストアンプモデルコントロールという位置で加えました。オリジナルのTweedサウンドを得るには、ベースとミッドをニュートラルである中間の位置にし、トレブルノブを半分より上で操作することをお勧めします。

Tweed Blues

'59年のFender Bassman 4x10コンボです。もともとベースアンプであるBassmanは、ブルースギタリストに多く使われ、太い低音とトップのフェンダートゥワング音から、ロックンロールの音として認知されています。かつて、Jim MarshallがKen Branと一緒に一号機を作ったときに、初期のBassmanを大変参考にしたという逸話があるくらいです。また、Bassmanのミッドとトレブルコントロールの関係については非常に興味深いものがあり、ミッドコントロールは他のトーンコントロールのようなバンドパスではないので、ミッドノブを半分以上上げてしまうとトレブルコントロールは必要以上に明るくなってしまい、反対に、ミッドノブを下げるとトレブルが下がりすぎてしまうのです。

又、Bassmanはマスターボリュームを持っていませんでしたので、ハイゲインセッティングにして得られるサウンドは、うるさすぎて立っていられなくなるほどでした。しかし、PODでは、同じサウンドが、ヘッドフォンを使うことによってベッドルームでもスタジオでも得ることができます。4か5のつまみの位置で弾いてみて下さい。ベストR&Bを彷彿させること請け合いです。

Black Panel

黒い面をしたFender Deluxe Reverbは、多くのブルースプレーヤーやカントリーミュージシャン達の憧れでした。そのシリーズの中でも64年のDeluxeを使って、アンプのボリュームを7ぐらいにして、ギターのボリュームを少し下げ気味にするやり方が人気があったようです。トーンコントロールのレスポンスがアンプモデルのドライブによってどの様に変化するかお試し下さい。クリーンセッティングは乾いた音になりますが、ドライブさせていくと豊で滑らかな音になります。これでDeluxeそのものの音を得ることができます。

オリジナルのDeluxeはベースとトレブルのコントロールしか装備していませんが、これ

についてもポストアンプモデルの位置でミッドノブを付けてしまいましたので、オリジナルサウンドをお楽しみになりたい時には、ミッドノブを12時の方向に合わせて下さい。

Modern Class A

Modern Class A とされているのは Matchless Chieftain であり、高級ハンドメイドアンプです。この設計の元になっているものは VOX AC30 ですが、Matchless は VOX にすこし EQ を施したサウンドになっており、近未来レトロと称されています。つまり、滑らかにクリップするクラス A アンプの典型であり、ハイファイサウンドの王道でもあります。

Brit Class A

60年代初期に音楽は変わり、ギタリスト達は、よりブリリアンスでトゥワングな音を求めるようになりました。よって VOX アンプのメーカーである Jennings Company は、トレブルとベースコントロール（と 12AX7 を搭載）を追加することを決定し、この回路によってトップブーストとして知られるようになりました。AC30 トップブーストは、多くのイギリスのバンドが使用したことで有名になりました。VOX サウンドの独特なキャラクターは 、Class AB よりも非常に違った方法でオーバードライブする Class A を採用したことによるものです。Queen の Brian May、Tom Petty’s Heartbreakers の Mike Campbell、U2 の The Edge が AC30 を使用しています。このアンプモデルにおいて、POD のミッドコントロールは AC30 のカットノブのように動作します。通常は非常にクリーンに演奏されますが、Queen の初期のアルバムで Brian May は非常に印象深いリードトーンとして使用しています。ノントップブーストの AC30 は、後述にある POD の Brit Class A #2 アンプモデルでモデリングされています。

Brit Blues

通常プレキシアンプとして連想されるサウンドは、60年代後期の50ワットバージョンを意味しますが、このサウンドは、約 '64-'65 年のブロック体のロゴ（現在の Marshall ロゴの前のもの）があり、完全な金色のプレキシグラス（プレキシ）フロントパネルの JTM-45 ヘッドが基になっています。JTM-45 では、メローでフェンダーのような音からはっきりした最近の明るいクランチーな音までを伺い知ることができます。

Brit Classic

マニアの世界では注目されている Marshall Plexi です。Marshall は 1968 年までに、フェンダーの 6L6 のパワーチューブを使う常識を変え、EL34 を使って回路を組み立て、更にトランスも変更しました。この改良が後世にまでロックギターと共に伝わる音を作り出したのです。この時代のアンプはマスターボリュームコントロールがありませんでしたので、Mark III Super Amp を最大まで上げるしかりませんでした。Jimi Hendrix が Marshall を使っていたのも丁度このころです。20 年後、Van Halen の初期の 2 枚のアルバムで 100W の Plexi が使われました。人々は Plexi でクランチサウンドを得るためにインプットボリュームとトーンコントロールを最大にして演奏するようになりました。こ

のBrit Classicはこのオリジナルサウンドを完璧に再現するようになっていますので、ミドルとトレブルノブを最大にし、ベースを9時か10時方向にしてお試し下さい。

Brit Hi Gain

1990年のMarshall JCM 800です。これはPlexiをグレードアップさせてトーンコントロールをプリアンプチューブの後においたもので，Marshallらしさを踏襲しながら新しい世代のギタリストを獲得しており、世界でもっとも多く使われているMarshallアンプのひとつです。これにPODではマスターボリュームを取り付けてあります。あるバージョンのJCM 800はダイオードをクリップさせてディストーションを得ているのですが、このモデルはチューブによるディストーションを使用しています。これはメタルサウンドとしてMarshallが有名にしたものです。Marshallではクリーンサウンドはあまり使われないでしょうが、非常に魅力的な音ですので、このモデルでドライブを低く設定して試してみて下さい。勿論ドライブをあげても結構ですが。。。。

Rectified

1994年のMesa Boogie Dual Rectifier Tremoverbです。Boogieは70年後期から80年前期にかけてマスターボリュームをつけて、フェンダーの回路を基礎に、よりゲインを稼いだことで有名になりました。ですから、フェンダーの音を踏襲しながらよりパンチのある音を得ることができます。Boogie Dual Rectifierのトーンコントロールはポストディストーションですので、PODでもそれぞれのコントロールがドライブも含めた他のつまみと相互に呼応しながら作用しています。ハイドライブセッティングではシアトルグランサウンドやDream TheaterやMetallicaのサウンドを得ることが出来ます。

Modern Hi Gain

Soldanoサウンドは、激しくオーバードライブがかかっており、プリアンプディストーションの後にEQがきています。この音はスラッシュメタルやグランジに向いていますが、Eric Claptonのようなアーティストでも極僅かに使用します。このアンプモデルは、Van HalenやJoe Satrianiを演奏するのに適しています。POD Modern Hi Gainアンプモデルは、Mike Soldanoのラックマウントプリアンプが基本になっています。凄いハイゲンプリアンプチューブディストーションです。このアンプモデルを作るために研究したX88Rは、'80年代後期にLos Angelesのスタジオで非常に流行ったものです。

Fuzz Box

1960年代のArbiter Fuzz Faceの特徴ある音はモデリングする価値があるサウンドです。このファズは、トランジスタを基本とした広範囲な周波数のクリップを使用しました。その結果、ある種の歪みが大きくなり、オルタナティブやグランジでよく使われる音になっています。Jimi HendrixはFuzz Faceをステージでいち早く取り入れましたが、このモデリングはAre You Experiencedで使われた音よりもダーティに作られています。ストーンズのSatisfactionやThe Guess WhoのAmerica Womanを弾いてみて下さい。ベース、ミドル、トレブルはFuzz Faceよりも幅が広くコントロールできますので、自分だけの

音を見つけてみて下さい。ちなみにJimiはPurple Hazeをレコーディングする際、プリアンプ自体使用しませんでした。直接ギターをFuzz Faceに入れて、Orangeのパワーアンプを介して4x12のキャビネットからだしていただけなのです。念のため。

Tube Preamp

これは唯一ギター用ではないプログラムです。PODのプログラムとして制作され、PODを手にしたとき、とてもすばらしいのでキーボード用として迫力与えたり、ドラム用として潰れた音にしたり、ボーカル用として音を毛羽立たせたりと色々なことにも使えると考えました。Tube Preampアンプモデルは、プロデューサーやエンジニアが再生時にギターアンプを通したり、ビンテージチューブ機器を通したりして効果を得るように、どんなサウンドにも迫力を与えます。よりボーカルのエッジが欲しいときには、PODにボーカルトラックを入れてみて下さい。あるいはシンセベーストラックをPODに入れ、ドライブやEQを上げて迫力を出して下さい。これはギターアンプモデルではありませんが、ギターの音を得ることもできます。またベース用のダイレクトボックスとしても御使用いただけます。その場合は［DRIVE］コントロールをリバーブのミックスノブのように使って、信号の量をコントロールします。PODPROに通す前のサウンドと通した後のサウンドをミックスすると音がムラになるので、それは避けましょう。その代わり音源を直接PODPROに入れてから、PODPRO処理後のサウンドだけをモニターします。トーンコントロールが12時の位置でEQがフラットになります。

Line 6 Twang (Tapホールド+ Line 6 Clean)

このモデルは、'60年代のFenderブラックフェイスDeluxeアンプと'50年代のFender Bassmanの分析を基にしてあります。(それには、Fenderの滑らかな高域とこれらのビンテージアンプの特徴が含まれています。)ドライブノブを最大にして始めてクランチになります。トーンコントロールは、ブラックフェイスDeluxeやBassmanよりも広い範囲を調節できます。

Line 6 Crunch #2 (Tapホールド+ Line 6 Crunch)

これは'68年の50ワットMarshall Plexiを研究している間に制作されたものですが、Plexiとは異なり、より広い範囲のトーンコントロールを備えています。Plexiでは一度オーバードライブにするとトーンコントロールはあまり効きませんでしたが、PODでは、ハイドライブセッティングにおいても中域を持ち上げることができます。

Line 6 Blues (Tapホールド+ Line 6 Drive)

'65年のMarshall JTM-45 Bluesbreakerを基本にしていますが、幅の広いトーンコントロールを組み合わせています。ドライブセッティングを高くすると、このアンプモデルは、Budda Twinmasterの甘いオーバードライブになります。

Line 6 Insane (Tapホールド+ Line 6 Layer)

このアンプモデルでは、可能な限りインプットゲインディストーションを稼ぎ出し、一

種のメルトダウン（溶けるような感じ）をもたらすことが出来ます。また、リッチなチューブドライブを嫌というほど得ることができ、他のアンプの存在を影のようにしていきます。しかし、これだけのディストーションを得ながらも幅広いレンジでトーンをコントロールでき、ボトムエンドやキャビネットのキャラクターも表現することができます。ドライブコントロールを上げてみて下さい。

Small Tweed #2 (Tapホールド + Small Tweed)

1960年のTweed Champをモデリングしています。ドライブを上げていくと非常に心地よい音になります。発売当初はビギナー用として販売される目的でしたが、低いボリュームでも歪みが得られることが受け、ロックンロールに早くから取り入れられるようになりました。50年代の多くのギターソロはこのアンプを使ってレコーディングされています。Champはトーンコントロールがなく、ボリュームだけでしたので、PODではベース、ミッド、トレブルが追加されていますが、12時の位置に設定すればフラットになりますので、オリジナルサウンドが得られます。

このアンプモデルのベース、ミッド、トレブルコントロールは本来のアンプの特性を損なわないようにしてあり、また、レコーディングの後でもEQに手を加えられるようにアンプモデルの後でトーンコントロールが作用するように設計されています。

Boutique #3 (Tapホールド + Tweed Blues)

Budda Twinmasterヘッドをモデリングし、暖かいクラスAサウンドになっています。これはパワーチューブディストーションという分かりやすいもので、ローゲイン、高いトーンコントロール性能、チューブ整流管の心地よいへたり具合で、スモールギグやレコーディングに於いてそのクラッシックなサウンドを誇ってきました。これもまた、ミッドがありませんでしたので、ポストアンプモデルにてミッドを追加し、PODのミドルコントロールで制御することができます。そして、12時にてBudda風vibeを得ることができます。

Black Panel #2 (Tapホールド + Black Panel)

1965年のFender Twinです。これはジャズからカントリーやロッカーまで幅広く使用されています。Johnny WinterやRick Derringerのコンサートでも使用され、大音量での威力を発揮していました。しかし、これは家庭でも十分に楽しめるというフレキシビリティーに富んだ側面も持ち合わせ、極端に歪んだりせず、音を大きくすることが出来ます。クラッシックサーフサウンドには、スプリングリバーブを上げ、トレモロを入れてボリュームを上げてみて下さい。

Brit Class A #3 (Tapホールド + Mordern Class A)

1960年のVOX AC15のチャンネル1をモデリングしてあります。このサウンドは、Brit Class AやBrit Class A #2にモデリングされているAC30と似ていますが、より小さく(1 x 12"スピーカー)、より暖かみが感じられる音になっています。これもオリジナルの

アンプはトレブルカットのトーンコントロールしか装備しておりませんので、ベースとミドルをポストアンプモデルにて追加しています。クラッシックブリティッシュサウンドを得たい場合にはベースとミドルを12時の位置にし、トレブルのみでコントロールして下さい。

Brit Class A #2 (Tapホールド + Brit Class A)

VOX AC30 Non Top Boostのノーマルチャンネルをモデリングしています。VOX AC30 Top Boostのところで説明したように、初期のVOXアンプは世界で最初にエレクトリックギター用のアンプとして設計されたもので（アコーディオン用のインプットを持つアンプはありました。）、クラスABが当たり前の時代に、このアンプはクラスA設計を採用していました。ロサンジェルスでアンプをレンタルし、テストしていく中で、Bryan Adamsが実際に好んでレコーディングに使い、Lenny Kravitsが一週間前に使ったものを見つけました。後にこのアンプを購入し、研究し、アンプモデルとしてPODの中に再現しました。クラッシックブリティッシュサウンドを試す手始めとしては最適のモデルと言えます。次に示すAC15のように、AC30 Non Top Boostはシングルトレブルコントロールのみでしたので、PODでは、このモデルの特性を損なわずに、ポストアンプモデルでベースとミドルを新たに追加してあります。12時方向でフラットになります。

California Crunch #1 (Tapホールド + Brit Blues)

Mesa Boogieは70年代後期から80年代にかけてFenderスタイルの回路にマスターボリュームを追加し、ゲインを上げたものを出してきましたが、これはBoogie Mark IIcのプラスバージョンの回路でクリーンチャンネルをモデリングしてあります。

California Crunch #2 (Tapホールド + Brit Classic)

Boogie Mark IIcのプラスバージョンの回路でドライブチャンネルをモデリングしてあります。サンタナを演奏するときにはこれをお使い下さい。

Boutique #1 (Tapホールド + Brit Hi Gain)

Dumble Over drive Specialのクリーンチャンネルをモデリングしています。Dumble Overdrive Specialは非常に高価なカスタムアンプであるために人の目に触れることさえないものです。しかもそのアンプはそれぞれが特注であるため、２つとして同じものが存在しません。そこで数個の違った種類のDumble Overdrive Specialをモデリングしました。クリーンチャンネルはアタックが敏感でダイナミックなレスポンスを持ち、ドライブチャンネルは音が太く滑らかになり、唱うようなサスティンを持っています。このアンプモデルのトーンコントロールは本物であるかのような味付けになっています。

Rectified #2 (Tapホールド + Rectified)

1995年のMesa Boogie Dual Rectifierヘッドです。PODのRectifiedでモデリングしてあるBoogieのTremoverbコンボと共に、Dual Rectifierは、より現代的でハイゲインなサウンドでした。Boogieの初期のものと比較して、Dual Rectiferのトーンコントロール

はハイゲインセッティング時に、より効くように設計されていますので、中低域を持ち上げることができます。

Modern Hi Gain #2 (Tapホールド + Modern Hi Gain)

Soldano SLO-Super Lead Overdrive ヘッドのモデリングです。POD Modern Hi Gain アンプモデルで使われたX88Rとは一線を画し、SLOはプレゼンスコントロール他の部分で異なっています。ドライブコントロールでサスティンが増します。

Boutique #2 (Tapホールド + Fuzz Box)

Dumble Overdrive Specialのドライブチャンネルをモデリングしています。Dumbleコンボサウンドをお楽しみになりたければ、Line6 Crunch モデルになります。

Jazz Clean (Tapホールド + Tube Preamp)

これは、Roland JC-120 をモデリングしてあります。このトランジスタアンプはステレオコーラスを搭載したクリーンサウンドで定評があります。Jazz Cleanのモードにした場合、トレブルをあげてキラキラ感を出していくと抜けの良いサウンドを得ることができます。これは80年代のニューウェーブサウンドにも匹敵します。反対にトレブルを絞り、ベースとミドルをあげていくと、ジャズ向きの音になり、コードメロディーや短音でのフレージングに向く音作りになります。

キャビネットモデル

PODでは、下記のキャビネットモデルが選択可能で、タップボタンを押しながらエフェクトノブを回すことによって得ることができます。

1x8	1960 Fender Tweed Champ
1x12s	1952 Fender Tweed Deluxe
	1960 Vox AC-15
	1964 Fender Blackface Deluxe
	Line 6 1x12
2x12s	1965 Fender Blackface Twin
	1967 Vox AC-30
	1995 Matchless Chieftain
	Line 6 2x12
4x10s	1959 Fender Bassman
	Line 6 4x10
4x12s	1996 Marshall with Vintage 30s
	1978 Marshall with stock 70s
	1968 Marshall Basketweave with Greenbacks
	Line 6 4x12
No Cab	ギター以外の楽器を接続した場合に、Tube Preampモデルと共に使用して下さい。工場出荷時には、Tube Preampモデルを選択した場合にはこれが選択されるようになっています。

アンプモデルを選んだときに自動的にキャビネットモデルも選択されます。アンプ/キャビネットの組み合わせのカスタマイズに関しては第六章を参照して下さい。

第五章
エフェクト

エディット

同梱されている Emagic の Sound Diver は Macintosh や Windows 両方に対応しており、POD のフロントパネル上で出来ることをはじめとし、コンピューターへのデータのセーブ、入れ換えや新たなエフェクトパラメーターへのアクセスが可能です。詳しくは第八章の MIDI によるエディットを参照して下さい。

内蔵エフェクト

アンプモデルに伴って、エフェクトも付属されており、エフェクト（１７）を回すことによって、そのプリセットサウンドを聴くことが出来ます。(第六章で述べられているとおり、エフェクトのプリセットもカスタマイズすることができます。) 更に、タップボタン （２０）やエフェクトトゥィークノブ（１６）で調節が可能です。

Reverbs

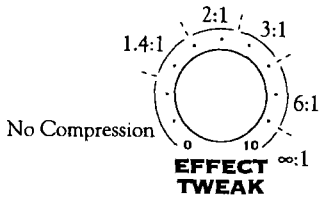
リバーブは、部屋の中にいるようなサウンド効果を作るエフェクトです。それは基本的には、空間にある音を伝えるための乱反射を多く持ったエコーです。POD では、リバーブは常に使用可能で、リバーブノブでその量をコントロールします。POD には、2 種類のリバーブが搭載されており、モデリングによるスプリングリバーブとスタンダードなデジタルルームリバーブです。これらは選択するアンプモデルによって決まります。(第六章を参照にアンプモデル/リバーブタイプの組み合わせをカスタマイズすることができます。) 一般的にいえば、アンプモデルの基になっているアンプがスプリングリバーブであれば、スプリングリバーブが選択されます。もし、(Brit Classic モデルの 1968 年の Marshall Plexiのように) リバーブが搭載されていなければ、ルームリバーブが選択されます。詳しくは、巻末の折り込みや Appendix A を参照して下さい。

Compressor

コンプレッサーは音の粒を揃えますので、弱い音は大きく、大きい音は大きくなりすぎないようにします。音の凸凹を無くし、サスティンを増やすためにも使用されます。コンプレッションはしばしば、2:1 とか 5:1 といった比で表されます。比が高くなるほど強弱の演奏の差が小さくなります。エフェクトトゥィークノブでコンプレッションレシオ

をコントロールします。設定には5段階あり、1.4:1, 2:1,3:1, 6:1, ∞:1まで変化します。(∞は無限大という意味で、エフェクトトゥィークを最大に設定すると、リミッターと同じように無限大のコンプレッションになります。)

アンプモデルに入る前に圧縮されるので、コンプレッサーペダルを接続している感覚です。



Tremolo

Fenderのトレモロをモデリングしてあります。エフェクトトゥィークノブでデプスを、タップでスピードをコントロールできます。早い設定をするときのために、予め実際のトレモロスピードは叩く速さの倍(タップボタンのLEDが光る速さの倍)になっています。

Chorus

PODには2種類のコーラスがあります。コーラス1は矩形波のよるモジュレーションで、ラックタイプのコーラスのような音です。コーラス2はよりフィードバックのある正弦波のよるモジュレーションですので、動きを伴いながら豊かなハーモニーを作ります。これは、RolandのCE-1と似ています。エフェクトトゥィークノブでコーラスのレンジが変化し、タップでスピードをコントロールできます。また、スローコーラスを得たい場合には叩く間隔を6、7秒にして下さい。或いは、タップボタンを押したまま、エフェクトトゥィークノブを回して調節することもできます。

Flanger

フランジとは70年代頃には“ジェットプレーン”という言い方をされていました。当時はレコーディングエンジニアが、テープリールを手で押さえながらそのスピードを調節してこの効果を出していたため、あまり頻繁には使用されませんでした。このテープリールを抑える部分からフランジ(輪の縁)という呼び方をされるようになりました。後に電気的に解明されてからは、使用機会が増えるようになりました。PODには2種類のフランジャーがあり、どちらも昔のADAのものをモデリングしました。フランジャー1はプリディレイがかからず、転回の激しいフランジャー2よりも軽いタイプですが、深いデプスを持っています。エフェクトトゥィークノブでエフェクトの範囲を、タップボタンでスピードをコントロールできます。

Rotary Speaker

Leslie のような高周波スピーカーホーンのエフェクトをシミュレートしました。ロータリースピーカーには、スローとファストという２つの速さがあり、PODのロータリースピーカーエミュレーションは、ゆっくりにしたときと、速くしたときでそれぞれ固定の速さですが、移行時には、あたかもロータリーが実際に回り出すようにだんだん速くなっていくモデリングになっています。エフェクトトゥィークノブでドップラー効果の量（ピッチモジュレーション）を、タップボタンでスピードをコントロールできます。

Delay

エコーやスラップバックとも言われ、エフェクトトゥィークノブでレベルを、タップボタンでディレイタイム、つまり、それぞれのエコーの間がどれくらいあるかをコントロールできます。ディレイタイムを早くした場合には、リピートの数が制限されますので、ロカビリーサウンドやサーフスラップバックサウンドを得ることが出来ます。タップボタンを押したままベースノブを回すと、ディレイリピートの数を微調整でき、タップボタンを押したままミドルノブを回すとディレイレベルを設定でき、タップボタンを押したままトレブルノブを回すとディレイタイムを微調整することができます。ディレイレベルを最大にすると、ディレイエコーのサウンドがダイレクト信号を上回り、U2 の The Edge のようなサウンドになります。

PODには、ダブルディレイラインセットアップという２つの独立したディレイが搭載されており、それぞれが３秒のディレイタイムを持っています。そこで、２つのチャンネルを違ったロングディレイに設定し、一つのチャンネルからもう一つのチャンネルに移るようにすると、スムーズに移行が行われます。ここが他の単なるエフェクト機器とは一線を画す部分です。

Floor Board や MIDI 機器を用いて POD をコントロールする場合、ディレイは、他のエフェクトが稼働している場合でも、いつでも使用可能です。Floor Board から、Emagic SoundDiverから、またはMIDIコントローラーメッセージでディレイのオン／オフスイッチをコントロールできます。(Appendix D MIDI Controls 参照)

Noise Gate

PODには、ノイズゲートは搭載されていますので、ハイゲインセッティング時（ハイゲインではギターサウンドに伴いノイズも大きくなるため）やプレイをしていないときのヒスノイズ等を軽減することができます。この機能はノイズゲートボタン（１９）により、いつでもオン／オフが可能です。

コンビネーションエフェクト

ディレイと他のエフェクトのコンビネーションです。タップで全てのこれらのエフェクトのスピードを設定します。ディレイリピートは（タップボタン＋ベースノブ）とディレイレベル（タップボタン＋ミドルノブ）という操作方法はこれらのエフェクトについ

ても使用可能です。（詳しくは第２章のタップ（ホールド）の記述を参照して下さい。）

Delay/Compressor
エフェクトトゥィークでコンプレッションレシオをコントロールできます。

Delay/Tremolo
エフェクトトゥィークによって、スピードとデプスが自動的に判断され、多様なトレモロ効果を得ることができます。トレモロの微調整をするときには、トレモロエフェクト（ディレイは除く）の設定をして下さい。

Delay/Chorus 1
エフェクトトゥィークでコーラスの設定をコントロールできます。

Delay/Chorus 2
エフェクトトゥィークでコーラスの設定をコントロールできます。

Delay/Flanger 1
エフェクトトゥィークでフランジャーの設定をコントロールできます。

Delay/Flanger 2
エフェクトトゥィークでフランジャーの設定をコントロールできます。

Delay/Swell
スゥェルとは、オートボリュームペダルの様なもので、それぞれの短音やコードをクレッシェンド→デクレッシェンドします。エフェクトトゥィークでボリュームのアタックスピードをコントロールします。もちろん、Floor Boardやボリュームペダル、MIDIペダル、他のコントローラー、またはギターのバイオリン奏法を使用しても同様の効果を得ることが出来ます。

第六章
音作りとセーブ

マニュアルモード
PODのマニュアルモードの際には、全てのコントロールがアクティブになり、通常のギターアンプのように、サウンドは常にノブのセッティングの位置になります。また反対に、マニュアルボタン（９）が点灯しているときには常にマニュアルモードであるとい

う事も言えます。お好きなサウンドになるまでノブを回して下さい。そこで今まで通りアンプに小さなテープを貼ったり、油性ペンで汚くしたりしてセッティングを書き留めておくか、PODのメモリー機能を使ってセーブしておくことができます。次にその方法について述べます。

チャンネルプログラムメモリー

自分で作った音色を本体内の36個のメモリーの何処へでもセーブすることが出来ます。セーブボタン（２１）を押し、点滅させ、アップ／ダウンボタン（１０）を押して、セーブするバンクやチャンネルを決めます。そして、更にセーブボタンを押すと、点滅が終了し、そのサウンドが選択された場所にセーブされます。その際に、以前の音色は上書きされます。(Floor Boardをお使いの際には第七章を参照して下さい。) サウンドのセーブを中止したい場合には、ボタンが点滅している間であれば、タップ、マニュアル、チューナー、ノイズゲート、MIDIボタンのいずれかを押すことでセーブモードから抜け出すことが出来ます。また、セーブボタンを点灯させてから５秒間どのボタンも押さなければ、そのセーブはキャンセルされます。

音色の転送

ホームページから

PODはサウンドの世界を拡げることができます。ホームページwww.line6.comのToneTransfer Web Libraryにアクセスすると世界中のLine 6ユーザーが制作したPODのサウンドがアップロードされています。付属のCD-ROMに入っているSoundDiverに保存、エディット、転送の説明が入っています。

Flextone IIやPOD ProへのPODサウンドの転送

PODのサウンドはPOD, POD Pro, Flextone IIシリーズに対して互換がありますので、どの機種に対しても自作のサウンドを使用することができます。ですから、スタジオや練習で使用したPODのサウンドを、ライブ用としてFlextone IIへ転送することが可能です。詳しくは、www.line6.comをご覧下さい。

POD同士のサウンドの交換

PODを持っている友人が、非常によいサウンドを作り、それをバンク１のチャンネルAにセーブしているとします。貴方は、そのサウンドがあれば、非常によい曲が書けそうなのですが、あいにく、説明書の裏表紙にあるサウンドプログラマーズシートにそれぞれのノブの位置を記入し忘れてしまっていました。ロックンロールで一発当てる夢を捨てて、借金返済のために、一生鳥かごを掃除しますか？このような状況が起こることを想定し、解決方法を見つけました。友人のPODのセーブボタンを押したまま、PODのアウトプットレベルノブ以外のノブを回します。そこでセーブボタンを離してもセッティ

ングに何も影響はありませんのでご安心ください。チューナーボタンの下の小さな矢印の一つが点灯する事が確認できるはずです。その時の矢印の方向にノブを回し、両方の矢印が点灯した場所が、セーブした時の位置になります。(アンプモデルとエフェクトのノブについては片方の矢印が点灯することはなく、選択された場所に来たときにだけ両方の矢印が点灯します。) これを全てのノブに対して行い、タップスピードを確認し、プログラマーズシートへ書き取ってください。それを持ち帰り、自分のPODへ移植すればよいのです。全てが上手く行って、ノブが設定されているかどうかを確かめるには、マニュアルモードに変更してサウンドが変わっているかどうかで見ることができます。(タップスピードを変更しない限り、変わりません。)

そのサウンドが複雑すぎる場合には、MIDI ケーブルを使って、第八章 MIDI によるエディットを参照して、2 台の POD の間の MIDI によるサウンドの交換の方法を行ってください。また、Macintosh や Windows コンピューターで、付属の CD-ROM に含まれる eMagic の SoundDiver を使って、交換することもできます。

エディットモード

一度PODのチャンネルメモリーの中にセーブしたサウンドにもっと低域を追加したい時に、まだサウンドが選ばれていなければ、ボタンを押して呼び出します。ベースノブを上げると、ディスプレイの左側にある EDITED と言う単語が点灯し、サウンドが変更されていることを知らせます。(好みのサウンドが得られたら)セーブボタンを使用します。このセーブされたチャンネルをエディットするモードのことをエディットモードと呼びます。POD のメモリーに入れるには、セーブを押し点滅させ、アップ/ダウンボタンで場所を確認し、もう一度セーブボタンを押します。

もしエディットしたものをセーブしたくなければ、セーブボタンを押さないで下さい。セーブボタンを押してしまっても、タップ、マニュアルのいずれかを押すことでセーブモードから抜け出すことが出来ます。また、セーブボタンが点滅してから 5 秒間、どのボタンも押さなければ、そのセーブはキャンセルされます。また、エディット中に他のチャンネルに変えてしまうと、エディットしていたサウンドは消去されてしまいますのでご注意ください。

アンプモデルとエフェクトのカスタマイズ

POD バージョン 2.0 では、アンプモデルノブとエフェクトノブによって、それぞれの初期設定をカスタマイズすることができます。これによって、自分のサウンドを POD に詰め込むことができ、(プログラムを選択する方法の他に) ノブをひねるだけで、即座に思い通りのサウンドが使用可能になります。下記に使用方法を述べます。

カスタマイズモード

セーブボタンを押したまま、マニュアルボタンを押してください。セーブ、マニュアル、A、BのLEDが点滅し始めます。これで、アンプモデルノブとエフェクトノブに対する設定に独自性を加えることができるカスタマイズモードに入ります。カスタマイズの方法を理解するために、アンプモデルノブとエフェクトノブを回すとどうなるかということを説明します。

アンプモデルノブを回すとアンプモデルが選ばれ、エフェクトノブを回すとエフェクトが選ばれるのですが、実は、それぞれのノブで、多くのパラメータを設定しているのです。アンプモデルを選ぶときに、アンプモデルノブによって次の表にあるパラメーターを設定しています。

アンプモデルノブによるコントロールパラメータ
アンプモデル
キャビネットモデル
ドライブ
ドライブ 2 (Line 6 Layer選択時)*
ベース
ミドル
トレブル
ブライトスイッチ(可能アンプモデル選択時)*
チャンネルボリューム
ディストーション On/Off (Tapホールド、ドライブ設定時)
ボリュームブースト On/Off (Tapホールド、チャンネルボリューム設定時)
プレゼンスOn/Off (Tapホールド、トレブル設定時)
ノイズゲートOn/Off (Tapホールド、リバーブ設定時)
ノイズゲートディケイタイム*
リバーブタイム*
リバーブディケイ*
リバーブトーン*
リバーブのデフュージョン（密度の推移）*
リバーブのデンシティ（密度の調節）*
ボリュームペダル位置(アンプモデルの前/後)*
最小ボリューム値*
最小ワウ値*
最大ワウ値*

* これらのコントロールにはSoundDiverやMIDIを使ってのみアクセス可能です。

同様にエフェクトノブを回すとそのエフェクトに伴って全てのパラメーターが設定されます。

カスタマイズによって、これら全てのパラメーターに対して、アンプモデルノブとエフェクトノブの16個のポジションに自分の組み合わせを保存することができます。これによって、例えばアンプモデルノブをRectifierポジションにすると、前述のリストにある全てのコントロールと共に、自分だけのRectifierを得ることができます。エフェクトについても同様で、自分のコーラス、自分のトレモロ等、常に一つのノブをひねるだけで得ることができます。

アンプモデルをカスタマイズすると、選択されたアンプモデルに上書きすることになります。例えば、Rectiferをカスタマイズし、そこへセーブし、次にRectiferを選ぶときにはいつもそのカスタマイズされた設定になるのです。Small Tweedを選択した場合には、Small Tweedへセーブされます。PODは、実際のアンプモデルの位置に関わらずセーブする的確な場所を判断します。つまり、Small TweedのポジションにModern Hi Gainの設定が保存されてしまうことはありませんのでご安心ください。これはエフェクトについても同様です；PODは、今トレモロを使用しているのか、ロータリースピーカーを使用しているのか他のものなのかを認識し、そのノブのポジションにセーブします。

使用しているアンプモデルやエフェクトが判らないときでも、カスタマイズする前に探すことができます。

セーブボタンを押したまま、アンプモデルノブやエフェクトノブを回します。ノブが正しい位置に来たときに、チューニングインジケーターの両方の矢印が点灯します。アンプモデルが17-32番目のものである時にはタップボタンも点灯します。

カスタマイズモードの活用

最初に、セーブしたいと思う本当に気に入ったアンプやエフェクトを探してください。このアンプやエフェクトの設定はファクトリープリセットを始めとし、自分のエディット、ホームページからダウンロードしたサウンド、SoundDiverで創ったものを使用することができます。そのソースが何であれ、そのサウンドを見つけることが第一です。

セーブボタンを押したまま、マニュアルボタンを押すと、セーブ、マニュアル、A、B,のLEDが全て点滅し始めます。これでカスタマイズモードに入っています。アップ/ダウンボタンを使ってAを選べば、PODはアンプモデルノブに現在のアンプセッティングをセーブするということを認識します。Bを選択すると、PODはエフェクトノブに現在のエフェクトセッティングをセーブするという事を認識します。下記に箇条書きにします。

1. お好みのアンプやエフェクトを探します。
2. セーブボタンを押したままにし、マニュアルボタンを押す。セーブ、マニュアル、A、Bのボタンが点滅する。
3. A（アンプ）かB（エフェクト）をアップ/ダウンの矢印を使って選択する。
4. セーブを押し、実行する。

メモリーリセットボタン

工場出荷時のプログラムにリセットしたい場合には、アップ／ダウンボタンを押したまま電源を立ち上げてください。

注意；これによって、カスタマイズされたアンプやエフェクトを含み、全てのチャンネルが消えてしまいますので、リセットの際にはよく確認してから行ってください。

第七章
フットコントローラー

フットコントローラーとしてFloor BoardとFB4というオプション設定があります。

Floor Board

Floor Boardを使用することによって、多くの操作をすることができます。このフットコントローラーはスチールシャーシでできており、ボリュームペダル、爪先でオン／オフできるワウペダル、内蔵クロマチックデジタルチューナー、足元で操作できるエフェクトオン／オフ等多くの特徴を備えています。です。詳しくは巻末の折り込みをご覧下さい。

接続方法

PODの電源を切った状態で、Floor BoardとPODを付属の専用ケーブルで繋ぎ、更にギターを接続してから、電源を入れてFloor Board （２６）の右端にあるボリュームペダルを上げて下さい。

２つのモード

Floor Boardにはチャンネルセレクトモードとエフェクトオン／オフモードという２つのモードがあり、モードセレクトスイッチ（２３）によって切り換えることが出来ます。

お手持ちのFloor Boardと巻末のイラストが少々異なっている場合があり、古いタイプのFloor Boardではチャンネルセレクトがセレクトサウンド、サウンドA, B, C, Dがチャンネル A, B, C, D となっておりますが、機能は同じです。

1. チャンネルセレクトモード

チャンネルセレクトモードスイッチを踏むごとに２つのLEDの矢印が交互に光り、エフェクトオン/オフかチャンネルセレクトが選択されます。上向きの時がエフェクトオン/オフ、下向きの時がチャンネルセレクトになります。

バンク

左下にある２つのスイッチ（２４）で各バンクのアップ/ダウンを行います。PODには、4つのチャンネルセッティングを1バンクとする9つのメモリーバンクがあり、工場出荷時にはそれぞれのバンクに予めプログラムがメモリーされていますが、いつでも書き換えが可能です。また、ディスプレイ（２５）には現在のバンクが表示されます。

Floor Boardでは、アップ/ダウンのボタンを同時に押すと、プリセットとユーザーバンクの切り替えができますが、PODには適用されませんのでご注意下さい。

チャンネルセレクト

Floor Board左下２つのスイッチ（２４）はバンクの切り替えに、右４つのスイッチ（２８）はチャンネルの切り替えに使用します。

マニュアルモード

マニュアルモードにはいつでも入ることができます。あるチャンネルを選ぶと、Floor Boardのチャンネルセレクトスイッチの上にあるチャンネルのLEDが光ります。このスイッチをもう一度踏み、数秒ホールドするとマニュアルモードに入ります。その時にディスプレイにはゼロと表示されます。マニュアルモードを終了するには、バンクアップ/ダウンスイッチを踏みます。

Floor Boardを使ったエディットとセーブ

Floor Boardのディスプレイ（２５）は、エディット中には(E)の表示が現れ、セーブボタンが押された場合には(S)が表示されます。エディットチャンネルをセーブする場合には、Floor Boardによってどの場所を選ぶこともできます。セーブ時の手順は下記の通りです。

1. お好みのチャンネルセットアップをエディットする。
2. PODのセーブボタンを押す。
3. Floor Boardのバンクアップ/ダウンスイッチを使って、セーブしたいメモリーバンクを探す。
4. セーブボタンを押す。もしくは、Floor Boardのチャンネルセレクトスイッチを２度踏む。

タップテンポ

タップテンポ（２７）スイッチを使って、ギターから手を離さずにタップテンポを変更することができます。そのスイッチの左側にあるLEDが、PODのタップボタンのように点滅し、エフェクトのスピードを知らせます。これを変更するには、タップテンポスイッチをテンポに合わせて踏むだけです。

チューナー

数秒間、タップテンポスイッチ（２７）を踏み続けると、クロマチックチューナーモードに入り、全てのPODのアンプモデルとエフェクトがバイパスされますが、ボリュームペダルは使用可能です。Floor Boardの下にある６個のLEDがその音の状態を示し、一番左がフラット、一番右がシャープ、真ん中の２つのLEDが同時に点灯するときがチューニングがあっているときです。この状態からどれかのスイッチを踏めばチューナーモードから抜けることが出来ます。

また、A=440Hz以外の周波数に合わせたい場合、例えばリハーサルルームのピアノに合わせるような場合は、チューナーモードにし、本体のミドルノブを回すと436-445Hzの範囲でリファレンス周波数を選択することができます。この周波数は次に変更するまで変わりませんので、毎回設定する必要はありません。

ワウペダル

ワウペダル（２６）のオン/オフは通常通り爪先の上げ下げによって行い、左側にあるLEDが点灯時にオン、消灯時にオフになります。このワウは60年代後期のVOX WAHをモデリングしてあります。特にBlack Panelアンプモデルを選択し、ドライブを５ぐらいに上げて演奏することをお勧めします。

ボリュームペダル

右側のボリュームペダル（２６）により、爪先を前に倒すと音が大きく、かかとを後ろに戻すと小さくなります。ボリュームペダルは非常にスムーズな音量の増減が可能ですので、Ernie ballボリュームペダルのように爪先を戻すときに最初はゆっくり、そしてより速くなるような変化をします。

多くのギタリスト達は極端なオーバードライブを非常に強めたいときにボリュームペダルの分圧器を取り替えていました。PODではこの点を十分に研究し、それぞれのアンプモデルの魅力を十分に引き出すように、ローゲインのアンプモデル（16ポジションスイッチの左半分）を選択した場合には、ノーマルボリュームペダルとして、プリアンプの前でコントロールするように設定され、ハイゲインアンプモデルを選択した場合には、ポストプリアンプでコントロールするように設計されています。付属のSoundDiverを使用するとアンプモデルと同様にボリュームペダルのカーブやポジションを変更することができます。

2. エフェクトオン／オフモード

モードセレクトスイッチ（２３）を押して上向きの矢印を点灯させるとエフェクトオン／オフモードに入ります。チャンネルセレクトモード時に使用していた６つのスイッチはそれぞれディストーション、ドライブ、EQ、トレモロ／コーラス、ディレイ、リバーブという機能になり、点灯しているスイッチが動作可能になります。

Distortion

ディストーションオン／オフスイッチは歪みを低く、出力を大きく設定したディストーションペダルのように動作します。一般のディストーションペダルでは、オンの時には、より歪み、オフの時にはあまり歪みません。PODでもこれと同じ事が起きます。実際にはドライブを持ち上げた状態になっていますので、インプット部においてアンプモデルを少し歪ませてありますが、ディストーションはドライブノブ（１２）が最大になっていても常にサウンドにドライブを与えることができます。

Drive/Boost

Floor Boardを購入した時期により、Drive/Boostと書かれたものとDriveとだけ書かれたものがあります。これは、Line 6の他のシリーズでこのスイッチはドライブとして機能するのに対して、PODでは実際にはボリュームブーストとして機能するからです。簡単なボリュームブースト/カットコントロールの要望がありましたので、搭載しました。使用方法としてはリードギターとバッキングの際の切り替え時のように、少し音を大きくして目立ちたいときのリードブーストやリズムパートとしてボリュームを戻したいときに御使用下さい。ドライブ/ブーストがオンになっているときには、フルブーストボリュームになり、オフの時には少し戻ります。

EQ

このEQオン／オフスイッチを踏むと、アンプモデルにもよりますが、6-9dBのプレゼンスがブーストされます。dBはデシベルと読み音の強さを示す単位です。ですから、6-9dBのプレゼンスがブーストされるということは音が少し明るいキャラクターを持つようになるという意味です。これはモデリングされたオリジナルアンプが、どの程度のプレゼンスを持った回路を組んであるかによって効果が違ってきます。

Tremolo/Chorus

トレモロ／コーラスオン/オフスイッチを踏むとトレモロやピッチ変調エフェクト(コーラスと呼びますが、本当はコーラス、フランジャー、ロータリースピーカー）の機能が動作します。LEDが点灯時にエフェクトオン、消灯時にエフェクトオフです。

Delay

ディレイオン/オフスイッチはディレイ効果のオンオフを行います。

Reverb

リバーブのオンオフをします。

エフェクトのオン／オフ

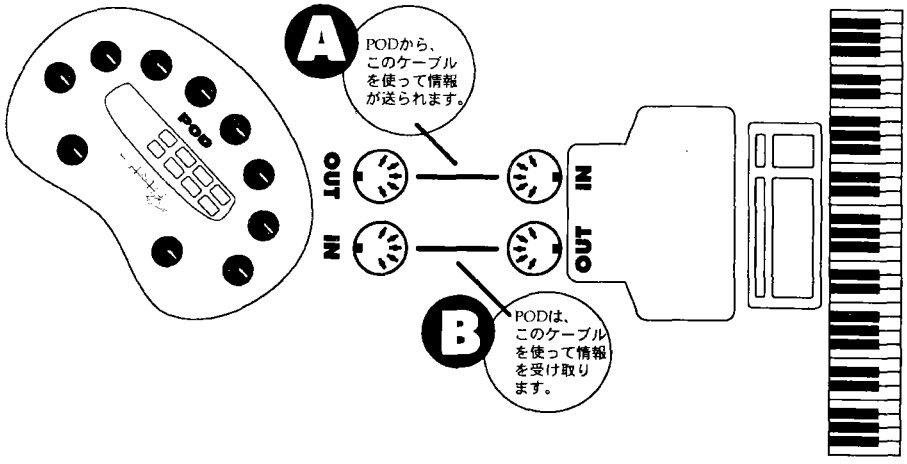
トレモロ、コーラス、フランジャー、ロータリースピーカーのそれぞれの機能はFloor Boardからオン／オフもできますが、PODのエフェクトトゥィークノブ（１６）を回すことによっても同様の効果が得られます。また、EQ（プレゼンス）、ディストーション、ドライブ／ブーストのオン／オフ機能に関してはFloor Boardを接続していない場合、タップボタンを押したまま、トレブル、チャンネルボリューム、ドライブノブを回すことによって設定が可能です。詳しくは第二章のコントロール＆コネクションを参照して下さい。

フットコントローラーFB4

FB4を使用することによってPODの基本的なものをコントロールできます。接続方法はPODの電源を切り、付属されているケーブルを使って接続して下さい。再び電源を入れ、FB4のお好みのA-Dまでのボタンを押して下さい。選択されたチャンネルのLEDが点灯します。さらに、そのチャンネルのボタンを押したままにすると、マニュアルモードに入ることが出来ます。また、LEDが点灯しているチャンネルを数回踏むことによって、タップテンポスピードを設定することが出来ます。

注意：FB4ではバンクの切り替えは出来ませんので、PODのアップ／ダウンスイッチを御使用下さい。

第八章
MIDIによるエディット



MIDIとは

MIDIとは(Musical Instrument Digital Interface)の略で楽器同士の情報交換のためのコミュニケーションプロトコルです。これによって、ある機器から他の機器をコントロールしたり、全ての機器をコントロールしたりすることが出来ます。

イン／アウト

PODはインとアウトという二つのMIDIコネクションを装備しており、他のMIDI機器とMIDIケーブルを使って接続することができます。これらはどちらも一方通行であり、アウトからインに情報が流れます。情報をフローバックさせるにはもう一方のインとアウトを接続します。

MIDIチャンネル

通常MIDIには一本のケーブルで１６チャンネルの情報を送受信することが可能です。それぞれのチャンネルは独立しており、それぞれのプログラムに付随させてメモリー出来ます。

また、テレビやラジオのチャンネルを選ぶようにPODのチャンネルとMIDI機器のチャンネルを合わせて同じチャンネルに送信することが出来ます。PODのチャンネルを設定するにはMIDIボタンを押し、点灯させると、現在のチャンネルが表示されますので、アップ／ダウンの矢印を使い16チャンネルのうちからお好みのものを選択します。PODの

ディスプレイは一桁しか表示できませんので、10から16までのチャンネルを表す場合には、例えば12チャンネルが2.というように、数字の右下にピリオドが表示されます。

全てのチャンネルを受けられるようにするには（オムニモード）、MIDIチャンネルをAにします。なお、オムニモードの際には送信チャンネルは1に設定されます。

MIDIメッセージ

MIDIを使うことによって色々なメッセージを送受信することが出来ます。

MIDIプログラムメッセージ

これを使うことによって、外部機器の音色や設定を変えることが出来ます。PODではプログラムチェンジナンバー1が送信されるとバンク1でチャンネルAという情報が、プログラムチェンジナンバー2が送信されるとバンク1でチャンネルBという情報が送られます。詳しくはAppendix Cを参照して下さい。

MIDIコントローラー

これを使うことによって、外部機器のパラメーターがリアルタイムでコントロールできます。例えばPODでは、ドライブコントロールやリバーブレベルを変えることが出来ます。PODのそれぞれのパラメーターはMIDIコントローラーに対応していますので、PODの全てのパラメーターがコントロール可能です。Appencix DにはPODのパラメーターが表示されていますので、コントローラーをそれに当てはめた上で操作して下さい。なお、Floor Boardのワウペダルやボリュームペダルからも MIDI コントローラーメッセージを送信することが出来ます。

MIDIの特性上、PODの設定を変える場合に段階を示すのデジタルノイズがはいる場合がありますので、急激に変化させないことをお勧めします。

MIDIシステムエクスクルーシブ

システムエクスクルーシブメッセージとはその機器固有のメッセージを意味します。PODでは、“ダンプ”といわれ、セーブされたサウンドの送受信の際に使われます。同梱されているEmagic Sound Diverでは、PODのプログラムをバックアップやエディットの際に、コンピューターとPODとの間の送受信のために使用されます。また、もう一台のPODやPODProやFlextone IIをお持ちの場合には相互のサウンドのやりとりに使用されます。以下にその方法を記します。

POD/POD PRO/FLEXTONE IIへの音色の送受信

PODから別のPODやFlextone IIやPOD Proへサウンドを送信したい場合、下記の通り行って下さい。MIDIケーブルを使用して送信側（PODかPODかFlextone II）のMIDIア

ウトと受信側のMIDIインを接続して下さい。

全てのサウンドの送受信

受信側の全てのサウンドが上書きされます。

PODやPOD Proからの送信

MIDIボタンが光っている事を確認し、セーブボタンを押して点滅させて下さい。すると、PODのディスプレイにAという文字が現れ、全てのサウンドが送られることを意味します。もう一度セーブボタンを押すと、全てのサウンドが送信されます。送信中にPODのどれかのボタンを押すと送信が中断されます。

Flextone IIからの送信（これらはFlextone IIのMID端子部にも説明されています。）
セーブボタンを押したまま、マニュアルボタンを押して下さい。Flextone IIのチャンネルA, B, C, Dのが点滅しますので、Dボタンを押します。続いてセーブボタンを押し、Flextone IIの全てのサウンドを受信側のPODへ送ります。するとPODはFlextone IIと同じサウンドになります。送信中にFlelxtone IIのどれかのボタンを押すと送信が中断されます。

いくつかのサウンドの送信

PODから他の機器への１つ以上の個々のサウンドが送信されます。

PODやPOD Proからの送信

PODを通常使用モード（MIDIボタンが点灯しないこと。）にし、送信したいサウンドを選びます。必要があればそれをエディットします。MIDIボタンを押し、セーブボタンを押します。次にアップボタンでAからIという文字に変更します。これは、一つのサウンドを送信すると言うことを意味します。もう一度セーブボタンを押すと送信され、他のどれかのボタンを押すと中断されます。また、受信側のPODやPOD Proはエディットモードになり、Flextoneの場合には、セーブボタンが点滅しますのでご注意下さい。どちらの場合も送信されたサウンドは、受信側にて待機状態になっておりますので、セーブする場所を選択し、もう一度セーブボタンを押してセーブを完了させます。

Flextone IIからの送信（これらはFlextone IIのMIDI端子部にも説明されています。）
セーブボタンを押したまま、マニュアルボタンを押して下さい。Flextone IIのチャンネルA, B, C, Dのが点滅しますので、Cボタンを押します。続いてセーブボタンを押し、Flextone IIのそのサウンドを受信側のPODへ送ります。送信中にFlelxtone IIのどれかのボタンを押すと送信が中断されます。また、受信側のPODはエディットモードになりますのでご注意下さい。送信されたサウンドは、PODにて待機状態になっておりますので、セーブする場所を選択し、もう一度セーブボタンを押してセーブを完了させます。

プログラムのバックアップ

PODのプログラムは、念のためにバックアップを取っておくことをお奨めします。他のMIDI機器（MIDIデータファイラーやシーケンサーやキーボードワークステーション）にサウンドを送信する場合は、PODからPODへ送信するときと同じ方法で行うことができます。
PODのMIDIアウトと受信側のMIDIインを接続して下さい。PODのMIDIボタンを押し、MIDIチャンネル確認し、アップ/ダウンボタンを使って受信側のチャンネルに合わせるか、受信側のチャンネルをPODのチャンネルと合わせて下さい。

全てのサウンドの送信

PODからMIDI機器へ全てのプログラムサウンドをダンプするには、まず、MIDIボタンを押し、光るのを確認した上でセーブボタンを押します。PODのディスプレイにAという文字が現れ、全てのサウンドが送信されることを意味します。MIDI機器をスタンバイさせ、PODのセーブボタンをもう一度し、全てのプログラムをダンプします。PODの他のボタンを押すと送信が中断されますが、送信が完了してしまったら、MIDI機器側のストップボタンを押して下さい。

いくつかのサウンドの送信

PODからMIDI機器への1つ以上の個々のサウンドを送信する手順を示します。PODを通常使用モード（MIDIボタンが点灯しないこと。）にし、送信したいサウンドを選択し、必要があればエディットします。次にMIDIボタンを押し、セーブボタンを押してアップボタンを使ってAから1に変更します。これは一つのサウンドを送信することを意味します。MIDI機器をスタンバイにし、PODのセーブボタンをもう一度押して、送信します。PODの他のボタンを押すと送信が中断されますが、送信が完了してしまったら、MIDI機器側のストップボタンを押して下さい。他のサウンドを送信したいときには、そのサウンドを呼び出し、MIDIボタン、セーブボタンを押し、アップボタンで選択し、受信側をセットして、再びセーブボタンを押して下さい。そして、MIDI機器側のストップボタンを押して下さい。

EMAGIC SOUNDDIVER ソフト

同梱されているEmagic SoundDiverは、コンピューターを用いてPODをコントロールするためのエディター／ライブラリアンソフトです。SoundDiverは、コンピューターに音色をセーブしたり、コンピューター上でしか操作できないパラメータを使ってサウンドエディットしたりすることが出来ます。CD-ROMにはインストールのための説明書きやユーザーガイドも入っています。SoundDiverを御使用の際にはMIDIインターフェイスが必要となります。

SoundDiverを起動させるためには、MIDIインターフェイスが必要になります。

※本ソフトウェアはemagic社「SiundDiver」POD用OEM版です。正規版へのアップグレード、お問い合わせ等は下記を参照ください。
◆付属ソフトウェア EMAGIC社 SoundDiver for POD に関するお問い合わせ先
コルグインフォメーション
電話 03-5376-5022
◆正規版 SoundDiver へのアップグレードに関するお問い合わせ先
EMAGIC 国内ディストリビューター「株式会社ミディア」
電話 03-5373-1502

※ POD に関する最新情報は以下のホームページをご覧ください。
LINE6 社ホームページ　URL http://www.line6.com/
KORG ホームページ　URL http://www.korg.co.jp/KID/

MIDI を使ったその他の機能

Emagic SoundDiver を使用してエディットやセーブをしたり、POD や POD Pro や Flextone IIの間で音色をやりとりしたりする事に加えて、MIDIで下記のことができます。

MIDI プログラムチェンジメッセージによるチャンネルの変更

MIDIプログラムチェンジメッセージを送ることが出来るフットコントローラー等をお持ちの場合にはその MIDI アウトと POD の MIDI インを接続し、両方の MIDI チャンネルを合わせて下さい。(フットコントローラーのプログラムナンバーと POD のチャンネルの対応表は Appendix C を参照して下さい。) マニュアルモードとチューナーはMIDIプログラムチェンジナンバーが予め固定されています。また、シーケンサーを使って自動的にサウンドが替わるようにプログラムチェンジメッセージを送ることもできます。

MIDI コントロールメッセージにより音色の変更

MIDI ミキサーやマスターキーボードやシーケンサーをお持ちの場合には POD の全てのパラメーターを MIDI によってコントロールすることが出来ます。(PODのパラメーターは Appendix D を参照してください。)

フル MIDI オートメーション

シーケンサーを使うことにより、Pro Tools TDMシステムのプラグインソフトウェア、アンプファームのように POD のパラメーターを自動的に制御することが出来ます。

POD は MIDI 情報を忠実に再現しますので、シーケンサーにその情報を書き込むことが出来ます。第三章にあるセンドとリターンを参考にし、接続方法を記します。

POD の MIDI アウトとシーケンサーの MIDI インを、シーケンサーの MIDI アウトと POD の MIDI インを接続し、両方の MIDI チャンネルを合わせます。

MIDIオートメーションの例を示します。PODのMIDIアウトからの情報を記録できるようにシーケンサーのMIDIトラックを設定し、レコーディングをスタートさせます。そして、PODのドライブノブをゆっくり最大まで上げていき、さらに最小まで下げたところで、シーケンサーを止めて下さい。記録された情報を見ると、PODのドライブパラメーターにMIDIコントローラー＃１３のメッセージが使われていることがお解りになるはずです。記録されたトラックを再び再生しながら演奏して下さい。MIDIトラックに従って、ドライブが変化していることが解るとはずです。

リバーブトーンのようにPODのパネル上からアクセスできないようなパラメーターをオートメーションさせるには、外部MIDIコントローラーを使うか、PODのMIDIチャンネルに適合したコントローラーナンバーを送信するためのコンピューター上でのシーケンサー等のコントローラーを使用して下さい。

MIDIの特性上、PODの設定を変える場合に段階を示すのデジタルノイズがはいる場合がありますので、急激に変化させないことをお勧めします。

SoundDiver セットアップトラブルシューティング

SoundDiverとウィンドウズサウンドカードを扱う場合にいくつかの症状が予想されます。下記にトラブルシューティングについて記述してあります。

1. サウンドブラスタータイプのカードには、1つ以上のMIDIドライバーがあります。このシステムでは通常シンセを内蔵しているため、外部MIDIポートを使用するのではなく、ドライバーも搭載しています。つまり、SoundDiverがPODを読みに行く前に、正しいドライバーを選択する必要があります。

2. MIDIケーブルはアウトからインへ、インからアウトへ接続して下さい（PODのMIDIインをコンピューターのMIDIインへは接続しないで下さい。PODのMIDIインとコンピューターのMIDIアウトを接続して下さい。）。情報が流れる方向という見地から考えて下さい。PODからのコンピューターへ流れ、コンピューターからPODへ流れます。

3. MIDIチャンネルを合わせて下さい。確実に情報交換が行える簡単な方法はPODのMIDIチャンネルをA（オムニモード）に合わせることです。

下記に基本的な段階を示します。

1. 新しいデバイスが見つからないというダイアログボックスが表示されている時には、SoundDiverのメモリーマネージャーウィンドウからマニュアリーと言う項目をクリックして下さい。

2. メモリーマネージャーウィンドウの左手に、パラメーターのリストが現れます。アウトポートが外部MIDIのドライバーに設定されていることを確認して下さい。それぞれのメーカーでそれぞれのドライバーネームを付けていますので、選択肢より選んで下さい。

3. デバイスIDを1に設定して下さい。

4. メモリーマネージャーの右手にある、ユーザープログラムというタイトルバーをクリックして下さい。すると、現在ブランクになっている36のユーザープリセットが反転します。

5. メモリーマネージャーの左上にある、小さいキーボードに矢印とクエスチョンマークがついているアイコンをクリックして下さい。これによって、PODから現在のプログラムを読み込みます。

APPENDIX A: AMP MODELS

Note:Fender, Marshall, Vox, Boogie, Soldano, Peavey, Roland, Matchless, Arbiter, ADA, Leslie 他、アーティスト名やグループ名等は全てそれぞれの商標であり、Line 6 とは無関係です。これらは、Line 6 の TubeTone モデリングテクノロジーに於いて、POD の幅広いサウンド特性を適切に表現する上で使用されております。

Amp Model Name	Based On	Volume Pedal Position	Reverb Type	Bright Switch
Tube Preamp	Tube Instrument Preamp	Post	Room	X
Line 6 Clean	Line 6 21st Century Clean	Pre	Room	○
Line 6 Crunch	Line 6 Thick Grindage	Pre	Spring	○
Line 6 Drive	Line 6 Industrial Strength OD	Post	Room	○
Line 6 Layer	Line 6 Clean Meets Psychotic Drive	Post	Room	○
Small Tweed	52 Fender Deluxe	Pre	Room	X
Tweed Blues	59 Fender Bassman	Pre	Spring	X
Black Panel	65 Fender Deluxe	Pre	Spring	X
Modern Class A	96 Matchless Chieftain	Pre	Spring	X
Brit Class A	63 Vox AC 30 with Top Boost	Pre	Room	X
Brit Blues	65 Marshall JTM-45	Pre	Room	○
Brit Classic	68 Marshall Plexi 50 watt	Pre	Room	X
Brit Hi Gain	90 Marshall JCM-800	Post	Room	X
Rectified	94 Mesa Boogie Dual Rectifier Tremoverb Combo	Post	Room	X
Modern Hi Gain	89 Soldano X88R Preamp	Post	Room	X
Fuzz Box	60's Dallas Arbiter Fuzz Face	Post	Room	X
Line 6 Twang	Fender Deluxe and Bassman, with more tone control range	Pre	Spring	X
Line 6 Crunch #2	68 Marshall Plexi 50 watt with more tone control range	Pre	Room	X
Line 6 Blues	Marshall JTM-45 meets Budda Twinmaster meets Line 6	Pre	Room	X
Line 6 Insane	Way too many hours of shredding	Post	Room	X
Small Tweed #2	60 Tweed Fender Champ	Pre	Room	X
Boutique #3	Budda Twinmaster head	Pre	Room	X
Black Panel #2	65 Blackface Fender Twin	Pre	Spring	○
Brit Class A #3	60 Vox AC 15	Pre	Room	X
Brit Class A #2	60 Vox AC 30 non-Top Boost	Pre	Room	X
California Crunch #1	85 Mesa Boogie Mark IIc+ Clean Channel	Pre	Spring	○
California Crunch #2	85 Mesa Boogie Mark IIc+ Drive Channel	Post	Spring	X
Boutique #1	Dumble Overdrive Special Clean Channel	Pre	Room	X
Rectified #2	95 Mesa Boogie Dual Rectifier Head	Post	Room	X
Modern Hi Gain #2	89 Soldano SLO Super Lead Overdrive	Post	Room	X
Boutique #2	Dumble Overdrive Special Drive Channel	Post	Room	X
Jazz Clean	87 Roland JC-120	Pre	Spring	○

APPENDIX B: EFFECT PARAMETERS

Effect	Tap	Tweak	Notes
Bypass	n/a	n/a	Turns off the effects.
Compressor	n/a	Ratio	There are 5 Compressor ratios: 1.4:1, 2:1, 3:1, 6:1, and :1. Higher settings "squeeze" your volume more.
Tremolo	Tremolo Speed	Depth	The tremolo was designed with the characteristic Fender tremolo shape.
Chorus 1	Chorus Speed	Depth	Square wave LFO, "rack" type chorus setup; subtler than Chorus 2.
Chorus 2	Chorus Speed	Depth	Sine wave LFO, approximately 10% feedback; emulates an old Roland CE-1 for classic stomp box-type sound.
Flanger 1	Flanger Speed	Feedback	Light flange.
Flanger 2	Flanger Speed	Feedback	Heavier flange; inverted, and with deeper range.
Rotary Speaker	Rotary Speed	Depth	This emulates a classic spinning speaker, a la the Leslie.
Delay	Delay Length	Delay Level	Very quick delays will have no repeats for better slapback.
Delay/ Compressor	Delay Speed	Compression Ratio	There are 5 Compressor ratios: 1.4:1, 2:1, 3:1, 6:1, and :1. Higher settings "squeeze" your volume more.
Delay/Tremolo	Tremolo Speed	Delay Level	The delay speed is set for a short slapback (100 ms).
Delay/ Chorus 1	Delay Speed	Delay Level	Chorus 1 uses a Square wave LFO, no feedback. This is the "rack" type chorus setup.
Delay/ Chorus 2	Delay Speed	Delay Level	Chorus 2 uses a Sine wave LFO, approximately 10% feed-back. This emulates an old Roland CE-1 for classic stomp box chorus sound.
Delay/Flanger 1	Delay Speed	Delay Level	Light flange.
Delay/Flanger 2	Delay Speed	Delay Level	Heavier flange; inverted, and with deeper range.
Delay/Swell	Delay Speed	Swell Attack Speed	Automatic volume pedal swells... Swell is a slow ramp-up, or swell of volume when you play each note.

APPENDIX C: MIDI PROGRAM CHANGES

MIDIを使ってPODのチャンネルを変更することが出来ます。0から始まるプログラムナンバーを持つ機器と1から始まるナンバーを持つ機器がありますが、PODはマニュアルモードで0から始まり、以後は下記の通りになります。

POD Channel	MIDI Program	POD Channel	MIDI Program
Bank 1		**Bank 6**	
Channel A	01	Channel A	21
Channel B	02	Channel B	22
Channel C	03	Channel C	23
Channel D	04	Channel D	24
Bank 2		**Bank 7**	
Channel A	05	Channel A	25
Channel B	06	Channel B	26
Channel C	07	Channel C	27
Channel D	08	Channel D	28
Bank 3		**Bank 8**	
Channel A	09	Channel A	29
Channel B	10	Channel B	30
Channel C	11	Channel C	31
Channel D	12	Channel D	32
Bank 4		**Bank 9**	
Channel A	13	Channel A	33
Channel B	14	Channel B	34
Channel C	15	Channel C	35
Channel D	16	Channel D	36
Bank 5			
Channel A	17	**Manual Mode**	00
Channel B	18	**Tuner**	37
Channel C	19		
Channel D	20		

APPENDIX D: MIDI CONTROLS（その１）

Sound Diver Parameters	Notes	Transmitted MIDI Range	Control #	Received MIDI Range
Amp Model	Selects Amp Model	0-15 transmitted from Amp Model knob	12	0 = Tube Preamp, 1-27 = Other Amp Models
Drive	-	0-127	13	0-127
Drive 2 (only if Amp Type = Layer)	-	NO TRANSMIT	20	0-127
Bass	-	0-127	14	0-127
Mid	-	0-127	15	0-127
Treble	-	0-127	16	0-127
Bright Switch	On/Off	Trans: Off=0/On=127	73	Rcv: 0-63=OFF, 64-127=ON
Presence	-	On/Off (Hold TAP, turn TREBLE)	21	0-127
ChannelVolume	-	0-127	17	0-127
Noise Gate On/Off	On/Off	Trans: Off=0/On=127	22	Rcv: 0-63=OFF, 64-127=ON
Gate Threshold	-	NO TRANSMIT	23	0-127
Gate Decay	-	NO TRANSMIT	24	0-127
Effect Select Knob	0-15	0-15	19	0=Bypass, 1-15 other effects
Effect Tweak		0-127	1	0-127
Distortion On/Off	Adds Preset Amount of Drive	FB SWITCH ON=127 OFF=0 (Or hold POD TAP, turn DRIVE)	25	Rcv: 0-63=OFF, 64-127=ON
Drive/Boost	4dB Boost of Channel Volume	FB SWITCH ON=127 OFF=0 (Or hold POD TAP, turn CH.VOLUME)	26	Rcv: 0-63=OFF, 64-127=ON
EQ (presence Bump)	Sets Pres On/Off to Preset Levels	FB SWITCH ON=127 OFF=0 (Or hold POD TAP, turn TREBLE)	27	Rcv: 0-63=OFF, 64-127=ON
Delay (always available)	On/Off	FB SWITCH ON=127	28	Rcv: 0-63=OFF, 64-127=ON
Delay Time	0-3140 mS, 128 equal steps	NO TRANSMIT	30	0-127
Double-precision control for Delay Time	with Delay Time, gives 14 bit precision	NO TRANSMIT	62	0-127
Delay Regeneration 1	-	NO TRANSMIT	32	0-127
Delay Level 1	-	NO TRANSMIT	34	0-127
Reverb (always available)	On/Off	FB SWITCH ON=127	36	Rcv: 0-63=OFF, 64-127=ON
Reverb Type	Spring/Hall	NO TRANSMIT	37	Rcv: 0-63=SPRING, 64-127=HALL
Reverb Decay	-	NO TRANSMIT	38	0-127
Reverb Tone	-	NO TRANSMIT	39	0-127
Reverb Diffusion	-	NO TRANSMIT	40	0-127
Reverb Density	-	NO TRANSMIT	41	0-127
Reverb Level	-	0-127	18	0-127
Compression Ratio	off, 1.4:1, 2:1, 3:1, 6:1, infinity:1	NO TRANSMIT	42	0-21=off, 22-44=1.4:1, 45-67=2:1, 68-90=3:1, 91-113=6:1, 114-127= infinity:1
Wah Wah Pedal On/Off	On/Off	FB SWITCH ON=127/ OFF=0	43	Rcv: 0-63=OFF, 64-127=ON
Wah Pedal	-	0-127	4	0-127
Wah Bottom Frequency	-	NO TRANSMIT	44	0-127
Wah Top Frequency	-	NO TRANSMIT	45	0-127
Volume Pedal	-	0-127	7	0-127
Volume Pedal Minimum	-	NO TRANSMIT	46	0-127
Volume Pedal Location	Pre Tube Drive / Post Tube Drive	NO TRANSMIT	47	Rcv: 0-63=BEFORE TUBE, 64-127=AFTER TUBE
Volume Swell On/Off	On/Off	NO TRANSMIT	48	Rcv: 0-63=OFF, 64-127=ON
Volume Swell RampTime	-	NO TRANSMIT	49	0-127
Tap Tempo	-	POD KEY OR FB SWITCH TRANSMITS 127	64	64-127= a Tap

APPENDIX D: MIDI CONTROLS (その 2)

Sound Diver Parameters	Notes	Transmitted MIDI Range	Control #	Received MIDI Range
Chorus/Rotary/Tremolo On/Off	On/Off	FB SWITCH ON=127	50	Rcv: 0-63=OFF, 64-127=ON
Chorus/Flange Speed	-	NO TRANSMIT	51	0-127
Chorus/Flange Depth	-	NO TRANSMIT	52	0-127
Chorus Flange Feedback	-	NO TRANSMIT	53	0-63 negative, 64-127 positive
Chorus PreDelay (if type= Chorus)	-	NO TRANSMIT	54	0-127
Rotary Speed	Slow/Fast	NO TRANSMIT	55	0-63=SLOW, 64-127=FAST
Rotary Max Speed	-	NO TRANSMIT	56	0-127
Rotary Min Speed	-	NO TRANSMIT	57	0-127
Tremolo Speed	-	NO TRANSMIT	58	0-127
Tremolo Depth	-	NO TRANSMIT	59	0-127
Cabinet Type	Selects Cab Simulation	0-15	71	0=No Cab, 1-15=Cab Models >15 treated as 15
A.I.R. Ambience Level	0-127	NO TRANSMIT	72	0-127